

秋田大学 概要

平成22年度

GENERAL INFORMATION BULLETIN 2010

AKITA
UNIVERSITY
2010

秋田大学 概要

平成22年度

目 CONTENTS 次

- 01 学長あいさつ
- 02 基本理念・基本的目標・教育目標
- 04 第2期中期目標・計画

教育・研究・社会貢献・国際交流

- 06 「まなびの総合エリア」を養成・研修拠点とした統合型教員養成
- 07 生体調節シグナルの統合的研究
- 08 北東北における総合的がん専門医療人養成プラン
- 09 あきたアーバンマイン技術者養成プログラム
- 10 プロジェクト[4A]
- 11 大学間連携と女性研究者支援 in 秋田
- 12 社会貢献
- 14 国際交流

- 16 教育文化学部・教育学研究科
- 18 医学系研究科・医学部
- 20 工学資源学研究科・工学資源学部

大 学 施 設

- 24 医学部附属病院
- 26 附属図書館
- 27 教育文化学部附属学校園
- 28 鉱業博物館
- 29 学部等附属教育研究施設
- 30 センター等
- 32 学内共同教育研究施設等
- 34 福利厚生施設等／体育施設等
- 35 東京サテライト／インフォメーションセンター

- 36 就職支援活動
- 37 平成22年度主な課外行事

資 料 編

- 40 沿革
- 43 歴代学長
- 44 運営組織
- 45 教育研究組織
- 46 事務組織
- 47 役職員
- 48 学生の定員・現員
- 49 入学志願者・入学状況／出身高校所在地別在学状況
- 50 卒業者・修了者数／学位授与数
- 51 卒業者等就職状況
- 52 平成21年度学生表彰受賞者
- 54 外国人留学生数／外国人研究員等
- 55 国際交流協定校
- 56 公開講座(平成21年度)
- 57 国内機関との連携・協力協定
- 58 役員数／教職員数
- 59 平成22年度予算／外部資金受入状況／平成22年度科学研究費補助金採択状況
- 60 土地・建物
- 61 刊行物一覧
- 62 各所在地・連絡先一覧
- 63 手形地区施設配置図
- 64 本道地区施設配置図
- 65 保戸野地区施設配置図
- 66 アクセス



地域への責任を自覚し 世界に発信する 教育・研究拠点をめざして

学長あいさつ

Message from the President

「選択」と「集中」という言葉があります。とくに地方国立大学に向けられたこの言葉の意義を、私は学長職3年目を迎え、つよく認識するようになりました。もちろん大学はその存在を謳うかぎり、規模の如何を問わず、教育研究活動が多様性と普遍性をもち、また世界水準をめざすものです。これを前提にしながらも、私は本学が以下の二点において独自性を発揮すべきだと考えます。

一つは、本学がこれまでに増して地域に根ざし、地域に必要とされることです。教育文化、医学、工学資源の三学部からなる秋田大学は、これまでも全国有数の高い学力水準を支える教師教育と地域医療、それに地場産業の振興など、地域の存続発展に不可欠の役割を担ってきました。私はこのような役割を、もはや自己を高みに置いた「貢献」の域ではなく、いわば地域への「奉仕」ととらえています。昨年8月に立ち上げた「秋田大学横手分校」は、そうした意図の一端を示すものです。また当該分校活動の一つである本学学生の特産食品づくりの支援などは、とかく仮想現実に入りがちな若者たちに社会現実への感性を育て、豊かな地域資源から未来に生きる術(すべ)を学びとってほしいという願望に結びついています。

他の一つは建学以来の伝統を強力に賦活しようということです。つまり、世界的な資源需要の高まりや資源再利用の動静に本学独自の知的活動をもって応えようと思います。その見地から本学は秋田鉱山専門学校以来培ってきた資源学の教育研究を組織的にも拡充させつつあります。昨年10月設立された全学組織「国際資源学教育研究センター」は、単に国内の資源教育と研究の拠点としてではなく、アジア、アフリカ等の新興資源国からも期待される人材養成の機関となるためのものです。留学生たちは陸続と参集しています。

秋田大学は今、内と外に向けて役割を発信しつつあります。このことを通して、本学は北東北の基幹的な大学としてのみならず、世界にその存在を示してまいります。

国立大学法人秋田大学長 吉 村 昇

An aerial photograph of a university campus. The scene is dominated by lush green trees and a wide, paved pedestrian path. On the right side of the path, a large number of bicycles are parked in neat rows. Several students are visible: some are walking along the path, while others are standing near the bicycles. The overall atmosphere is bright and sunny, with strong shadows cast on the ground.

The Mission, Goal, and Educational Objective

基本理念 基本的目標 教育目標

秋田大学は、次の基本理念を定め、それを達成するための
5つの基本的目標をもって活動を推進します。
また、特に養成する人材像を
教育目標として定め、教育にあたります。



基本理念

1. 国際的な水準の教育・研究を遂行します。
2. 地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
3. 国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

基本的目標

1. 「学習者」中心の大学教育を行い、幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備えた人材を養成します。
2. 基礎から応用までの研究、特に『「環境」と「共生」』を課題とした独創的な研究活動を行います。
3. 地域と共に発展し、地域と共に歩む「地域との共生」を目指します。
4. 国際的な教育・研究拠点の形成を目指し、地球規模の課題の解決に貢献します。
5. 学長のリーダーシップの下、柔軟で有機的な運営体制を構築します。

教育目標

学部

1. 社会の変化に柔軟に適応できる幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備え、社会の発展に貢献できる人材を養成します。
2. 地域の文化的・経済的発展に貢献できる人材を養成します。
3. 国際人として通用するコミュニケーション能力・異文化理解力を備えた人材を養成します。

大学院

1. 国際人として通用する、高度な専門性・独創性と倫理性を備えた人材を養成します。
2. 専門性の高い研究能力を備え、指導者になりうる人材を養成します。

第2期中期目標・計画

Mid-term Objectives and Plan

(平成22年4月1日～平成28年3月31日)

秋田大学は、大学の基本理念・基本的目標・教育目標に基づき次のとおり中期目標を設定するとともに、それを達成するための中期計画を策定し、大学の運営に当たっています。

大学の基本的な目標

秋田大学は、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、地域と共に発展し地域と共に歩むという存立の理念を掲げる。この見地から本学は、地域の現実を踏まえた教育研究の場において、優れた人材の育成に努めるとともに、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れることに努める。そのために、他の高等教育機関との連携による柔軟な組織づくりを推進する。

人材育成については、本学を構成する教育文化、医、工学資源の三学部は、それぞれ固有の専門教育によって、さらには諸学諸組織の融合を通じて、地域社会を担う専門的職業人と国際社会に活躍

する高度専門職業人及び学術を担う研究者を育成する。このためには、主体性と節度のある社会人となるための充実した教養教育が不可欠である。こうした基本認識に立って、秋田大学は学生と教職員との全学的な知の交わりが躍動する、学習者中心の大学たることを目指す。

以上のような理念と指針に基づいて、活動の基本的な目標を以下に定める。

1. 教育においては、その内容と質が国際的に通用する水準を維持するように努め、時代の諸課題に取り組む人材を育成する。



2. 研究においては、地域の現実から人類的諸課題へ視野を拡大させた、特色ある研究活動を推進し、その成果を継続的に地域と世界に発信する。
3. 社会貢献においては、大学開放事業の推進や医療・福祉の充実、教育・産業振興に参画し、地域の羅針盤としての役割を果たす。
4. 国際化においては、学生教職員の海外留学・派遣を促進し、アジアの国々をはじめとした諸外国の留学生・研究者の受け入れの増加と受け入れ環境の整備に努める。
5. 大学経営においては、学長の指導力を高め、迅速な意思決定の下に、諸資源を効果的に投入することにより、存立基盤を充実させる。

中期目標

- ・大学の教育研究等の質の向上
- ・業務運営の改善及び効率化
- ・財務内容の改善
- ・自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供
- ・その他業務運営

に関する目標を達成するためにとるべき措置として、60項目を計画しています。

本学の中期目標・中期計画の全文は

〈ホームページ〉

http://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in_taeget.html

からご覧いただけます。

特別経費(プロジェクト分)－高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実－

「まなびの総合エリア」を養成・研修拠点とした統合型教員養成

(実施期間：平成22年度採択～平成24年度)

本プロジェクトの特色

教師の資質向上のためにはこれまで、大学における教員養成カリキュラムの充実と、教員採用後の現場における教育方法技術の習得が必要とされてきました。一方、教育課題が多様化する中で学校あたりの教員数が減少するなど、採用された教員に対しては即戦力と実践力が強く求められております。本プロジェクトでは、複数の実務家教員を一つのエリアに配置して学生の教育を行うとともに、特に臨時的に採用された教員に対して大学・附属学校園を活用して現職研修を実施するなど、これまでの「養成は大学で、研修は採用者が」とは一線を画す、教員養成と教職研修の垣根を低くした統合型の教員養成を行うことを特色としています。

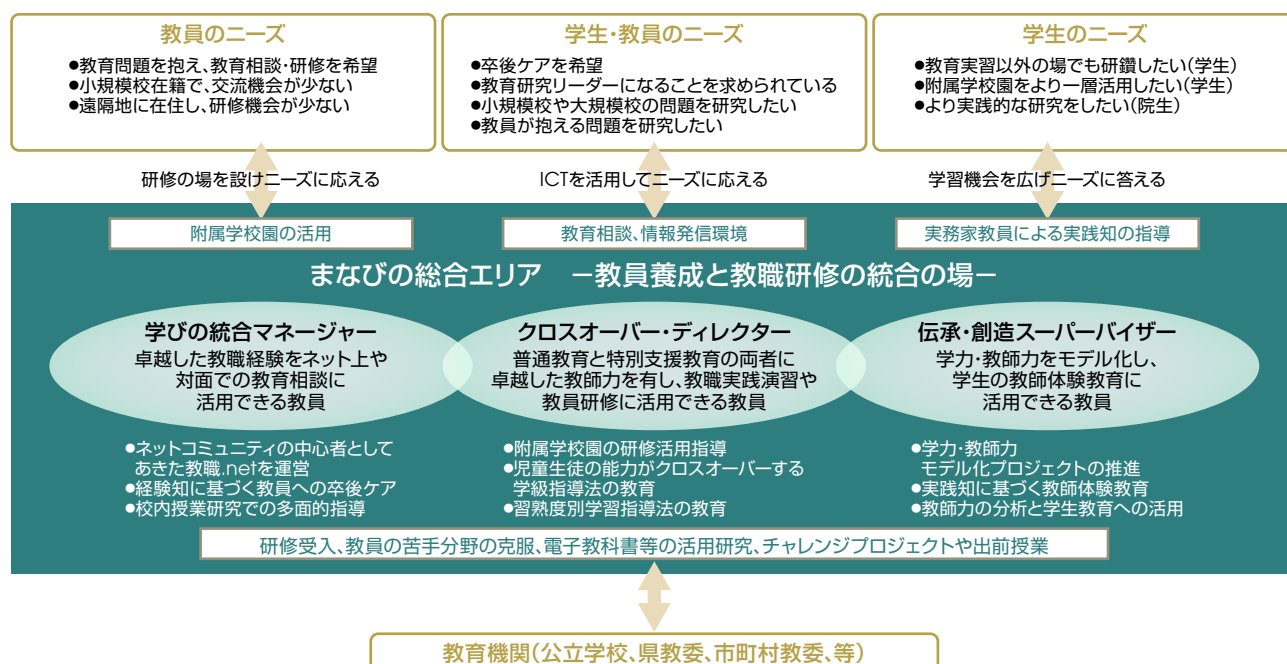
「まなびの総合エリア」とは？

「学びの統合マネージャー：卓越した教職体験を教育相談に活用できる教員」「クロスオーバー・ディレクター：普通教育と特別支援教育の両者に卓越した教師力を有し、学生の教職演習や現職の教員研修に活用する教員」「伝承・創造スーパーバイザー：秋田の学力・教師力を研究してモデル化し、学生の教師体験教育に活用する教員」と命名する三名の実務家教員を配置して記載の任にあたり、また学部教員と連帯することにより、その相乗効果をもって教師教育と

現職研修を推進する組織場、を指します。なお、その物理的な場を教育実践研究支援センター内に置いています。また、「あきた教職.net」というネットワークを介して学生や県内外の教員が接続できるネット環境の場でもあります。

プロジェクトの概要

1. 附属学校園等を活用して現職教員(特に研修の場を求める臨時採用教員)に対する教育方法技術に関する研修を行います。
2. 普通学級の中で特別な支援を必要としている児童生徒の指導を教師が行うための方法について、大学教育・現職研修の場で実践的な指導・研究を行います。
3. 教育相談活動を行うための環境を整えます。相談室と模範となる授業風景のビデオライブラリを整備し、対面での相談活動に活用します。また、遠隔での相談を行うための「あきた教職.net」を活用してネット上での教育相談活動にあたります。
4. 新規授業科目である教職実践演習について試行を行い、教師力を高めるための教育内容について研究します。
5. 全国学力テストにみられた秋田の学力・教師力を分析してモデル化し、伝承・創造すべき力についての実証研究を行います。



グローバルCOEプログラム 生命科学分野

生体調節シグナルの統合的研究

(実施期間:平成19年度採択～平成23年度)

グローバルCOEとは？

グローバルCOEプログラムは、平成14年度から文部科学省において開始された「21世紀COEプログラム」の評価・検証を踏まえ、その基本的な考え方を継承しつつ、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、国際的に卓越した研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、もって、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とする事業(<http://www.jsps.go.jp/j-globalcoe/index.html>より抜粋)です。教育・研究の場である大学にも「選択と集中」の原理が適用されつつあります。是非はともかくとして、大学が今後発展していく上で、「選択と集中」に利を得ていくことは重要です。学長を頂点とした国立大学法人が適切な戦略を立て、国から重点的支援を得られるか否かが、学生の恵まれた学習環境・研究環境実現の成否を分ける一つのポイントになる現況です。

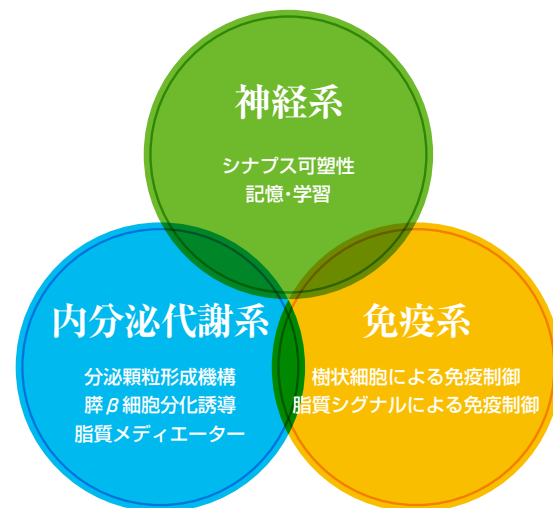
21世紀COEプログラムからグローバルCOEへ

平成19年度グローバルCOEプログラム生命科学領域においては55件の応募から13件が採択され、その一つが秋田大学と群馬大学が連携して提案した「生体調節シグナルの統合的研究」です。これは、両大学が5年間連携して、既存の学問領域の枠を超えた生体調節シグナルに関する教育研究を、両学長の主導のもとに大学規模で一体となって展開するものです。両大学の効率的連携・融合により、神経系・内分泌系・免疫系という互いに連関する生体の3大調節系の教育研究を相補的かつ相乗的に展開することが可能になります。国際的競争力をもつ強固な拠点を形成し、基礎研究の成果をイノベーション創出に繋げるとともに、生命科学研究の次代を担い、国際的に活躍する若手研究者を養成していきます。



教育研究の概要

研究面では既に多くの知見が得られており、英科学誌Natureをはじめとする国際的に権威ある学術誌にその成果が続々と報告されています。これはまた、多くの若手研究者がキャリアアップを果たす好循環をもたらせています。教育面では、事業推進者の羽淵教授と山田教授が医学系研究科学務委員長を歴代務め、大学院教育のいっそうの充実を図っています。大学院生の長期海外派遣を支援し、また、国内研究機関との共同研究への大学院生の積極的な参画も奨励しています。医学部のみならず広い専門分野の学部卒業生が、世界レベルの生命科学研究を体感し、学習する環境が整いつつあります。



生体の3大調節系

がんプロフェッショナル養成プラン

北東北における総合的がん専門医療人養成プラン

(実施期間：平成19年度採択～平成23年度)

がんプロフェッショナル養成プランとは？

平成19年4月から施行された「がん対策基本法」には『がん医療に携わる専門的な知識および技能を有する医師その他の医療従事者の養成を図るために必要な施策を講ずるものとする』(第十四条)と明記されています。これに応える形で、文部科学省が『質の高いがん専門医等を養成し得る内容を有する優れたプログラムに対し財政支援を行うことにより、大学の教育の活性化を促進し、今後のがん医療を担う医療人の養成推進を図ること』を目的として平成19年度から創設した計画が「がんプロフェッショナル養成プラン」です。

プランの概要

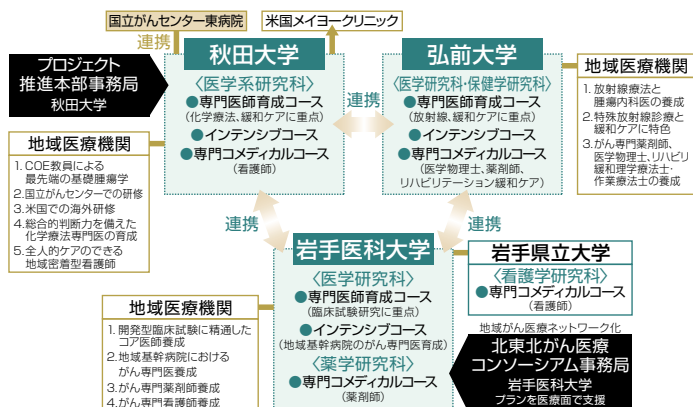
がん死亡率が最も高いといわれている北東北のがん医療の改善や、医療過疎地域を多く抱える北東北地域において総合的がん専門医療人を養成する取組みです。

本プランは、北東北の3医学系研究科と1看護学研究科が中心となり、地域中核医療機関との連携、情報ネットワークの活用、北東北のがん登録の統一、がん診療の精度管理を行うカンファレンスの実施等により、医療過疎地域を多く抱える北東北地域において総合的がん専門医療人を養成します。

各研究科とも、化学療法、放射線療法、緩和ケアの3コースと、臓器別がんの横断的カリキュラムを組み合わせ、大学・関係機関の広域的な協力、地域医療機関の連携、海外研修等を充実させることで、高い臨床能力と研究能力を兼ね備えた総合的・全人的がん専門医等を養成するものです。

〈北東北における総合的がん専門医療人の育成〉

がん多発地域におけるがん医療均てん化をめざす広域医療人育成システムの構築



平成21年度の活動実績について

平成21年度、がんプロ専攻養成コースでは新たに、多角的治療戦略に精通した専門臓器指向性のあるがん専門医養成コースへ9名の学生を受け入れました。また、授業のほぼ全てをDVDに収録し、授業互換に活用するとともに、がんプロ専攻学生に貸し出しを行いました。

8月には、エイズホスピス施設長(ドイツ初)を招いて特別講演会を開催し100名程度の医療関係者や学生の参加を得ました。また、岩手県立大学と本学の間でリアルタイムにネット配信をいたしました。

プロジェクト活動の一環として毎年行っている「北東北がんプロFDワークショップ」を1月に開催しました。第4回目を迎えた今回は、医療関係者だけではなく一般の方々にも広く認知していただくことを念頭に入れ、公開シンポジウムという形で開催したところ、地元テレビ局や新聞社の取材を受け、特別番組としても放送されました。

ホームページ上では、がんプロメンバーズサイト(入会無料)を立ち上げました。なお、入会者はサイトから過去の招請講演、特別講演、特別講演、FDワークショップを視聴できるようにしました。



平成21年度秋田大学大学院
医学系研究科保健学専攻
特別講演会(平成21年8月25日)



第4回北東北がんプロフェッショナル養成プランFDワークショップ
(平成22年1月30日)

地域再生人材創出拠点の形成

あきたアーバンマイン技術者養成プログラム

(実施期間：平成20年度採択～平成24年度)

地域再生人材創出拠点の
形成プログラムとは？

本プログラムは、大学等有する個性・特色を活かし、将来的な地域産業の活性化や地域の社会ニーズの解決に向け、これらに貢献し得る人材の育成を行うことを目的としています。地域の大学が地元の自治体との連携により「地域の知の拠点」を形成し、地方分散型の多様な人材を創出するシステムの構築を推進していくものです。

秋田大学は、「あきたアーバンマイン技術者養成プログラム」という課題で、応募数52件の提案から13件の優れた取り組みの一つとして採択されました。

プログラムの概要

まもなく100周年を迎える工学資源学部は、創立以来現在に至るまで、天然資源並びに都市鉱山から有用な資源を回収するための研究開発を継続している知の拠点です。

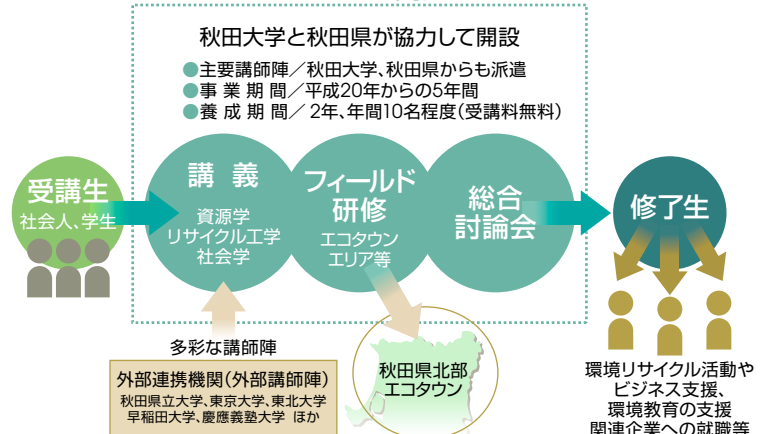
一方秋田県は、県北部地域においてエコタウン計画を推進する等、環境リサイクル産業の振興を図ってきており、これらを一層進展させるには、新たな環境リサイクル技術の開発やリサイクルネットワークの構築などを支援できる人材の育成が重要となっています。

このような背景から、秋田大学と秋田県は密接に連携し、さらには県内外の有識者や企業・自治体の協力を受けながら、本プログラムの主要事業として、「あきたアーバンマイン開発アカデミー」を創設し、エネルギー工学を含む資源学を始点に、有用金属の選別・生産技術やリサイクリング技術、バイオマスエネルギーの利用等の化学関連技術、そして県内の情勢を含めた環境学や社会学、経済学などについて講義を行い、環境・リサイクル産業を理解し利用技術に展開することを目的とした、人材養成を行っています。



リサイクル技術に関する実習

〈あきたアーバンマイン開発アカデミー〉



〈概 要〉

- (1) 受講生の養成期間：2年間
- (2) 受講生：10名／年程度
企業等における技術者、行政担当者、教職者、市民団体関係者等秋田県在住者、大学生および大学院生
- (3) プログラム構成：
毎月1回土曜日に集中講義、フィールド研修、総合討論会
- (4) 講師陣：
秋田大学、秋田県、秋田県立大学、(財)秋田県資源技術開発機構、DOWAグループ等エコタウン内の企業、東北経済産業局、北海道大学、東北大学、東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、北九州市立大学、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)等
- (5) 受講料、研修費：無料

あきたアーバンマイン
開発アカデミーの教育目標

アカデミーにおいては、以下の知識や能力が受講生の身につくように教育体制を整備しています。

- (1) 環境・リサイクル産業に関わる、工学的基礎知識と設計・解析・評価に関する能力。
- (2) 環境・リサイクル産業に関わる、プロセッシングないし利用技術に関する設計・評価能力。
- (3) 環境・リサイクル産業に関わる、環境影響や環境アセスメントなどに関する知識と評価能力。
- (4) 環境学、社会学、経済学、技術者倫理などについて、地球的視野にたつて、また市民的公共性をもって理解する能力。
- (5) 秋田県内における環境・リサイクル産業に関わる課題について理解して、具体的解法を提案できる能力。
- (6) 技術開発や共同研究テーマの発掘、リサイクル産業への支援、リサイクル・ビジネス振興、環境教育・学習事業への協力などについて方策を提案できる能力。

戦略的大学連携支援事業

プロジェクト[4A]—連携による知のベース構築と「秋田戦略学」の展開—

(実施期間：平成20年度採択～平成22年度)

「戦略的大学連携支援事業」とは？

国公立大学間の連携を進めることによって各大学の教育研究資源を有効活用し、地域の知の拠点として教育研究水準の高度化、個性・特色の明確化を図ることを目的として、文部科学省が平成20年度から開始した支援事業です。

「プロジェクト[4A]」とは？

秋田大学を代表校として、秋田県立大学、国際教養大学、ノースアジア大学、秋田公立美術工芸短期大学、日本赤十字秋田短期大学、聖園学園短期大学、秋田工業高等専門学校が連携して、知の基盤を構築し、地域の高等教育力を高めるとともに、地域の抱える諸課題を戦略的に解決することを目指すプロジェクトです。事業期間は3年ですが、今後10年を見通して活動を展開します。

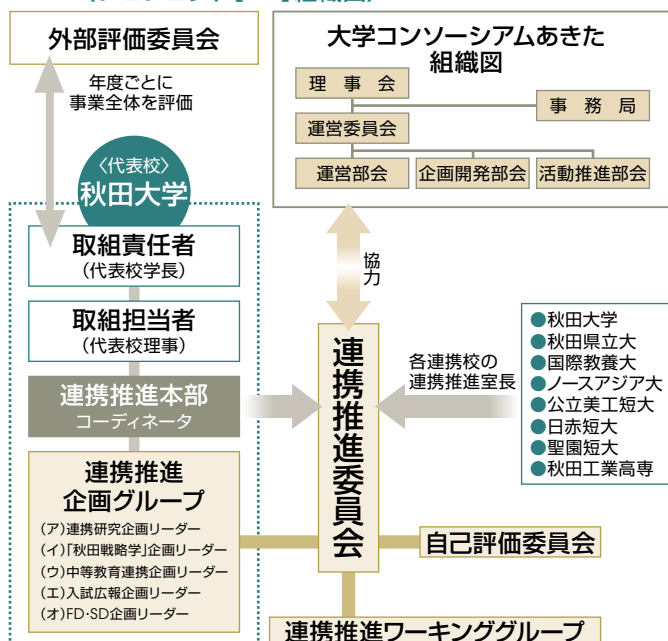
[4A]という語は、秋田(Akita)において、高等教育機関の連携によって展開する学術的(academic)研究に基づく、活動的(active)で現実社会の諸課題の理解・解決に向けた真正の(authentic)学び、という「4つのAを重視した学び」を表す造語です。

プロジェクト[4A]

4つのAの学び

Academic
Active
Authentic
for Akita

〈プロジェクト[4A]組織図〉



取り組みの概要

プロジェクト[4A]は以下の事業を展開します。

1. 秋田を探究する
地域社会の諸問題をテーマとした学際的研究プロジェクトを進めます。
2. 秋田を学ぶ
学際的研究にもとづいて、全連携校から担当教員による連携校共通授業「秋田戦略学」を実施します。
3. 学びをつなぐ
高校生・中学生向け授業の開講など、中等教育と高等教育の連携を図ります。平成21年度からは「単位取得予約型授業」を開講します。
4. 秋田で学ぼう
プロジェクト4Aに参加している大学が展開する高等教育について、オープンキャンパスや大学説明会の共同実施を通して全国に発信します。
5. 質の高い学びの場を
学生理解・学生対応に関する教員および職員研修(FD/SD)を共同で実施し、秋田の高等教育の発展を目指します。

平成21年度の活動実績

- 平成21年6月、7月…学長連続講演会(計4回)実施
- 平成21年6月5日(金)…単位取得予約型授業「生命科学への招待」開講
- 平成21年6月13日(日)…「秋田の大学入試説明会in仙台」実施
- 平成21年7月11日(土)…「秋田の大学入試説明会in名古屋」実施
- 平成21年7月13日(月)…FD/SDワークショップ
「学生のメンタルケアを考える」実施
- 平成21年7月26日(日)…「秋田の大学入試説明会in東京」実施
- 平成21年9月6日(日)…研究プロジェクト1・2合同シンポジウム
「まちづくりと大学について考える」実施
- 平成21年9月21日(月)…
「共同オープンキャンパスフェスタin能代」実施
- 平成21年10月1日(木)…単位取得予約型授業「秋田戦略学Ⅰ」開講
- 平成21年10月7日(水)…研究プロジェクト4
「八郎湖の水質改善をめざした基礎的総合研究」中間発表会実施
- 平成21年10月18日(日)…
「共同オープンキャンパスフェスタin秋田」実施
- 平成21年10月28日(水)…プロジェクト4A研究発表会
「地域の課題解決をめざして」実施
- 平成21年10月31日(土)
「共同オープンキャンパスフェスタin横手」実施
- 平成21年11月26日(木)…単位取得予約型授業「秋田戦略学Ⅱ」開講
- 平成21年12月15日(火)…SDセミナー
「留学にかかる基礎知識の習得をめざす！」実施
- 平成21年12月26日(土)…中学生対象「色を楽しむ科学教室」実施
- 平成22年2月15日(月)…FD/SDフォーラム
「連携して取り組む学生理解・学生支援」実施
- 平成22年2月21日(日)…研究プロジェクト5
シンポジウム「誰も一人にしない地域づくりをめざして」実施



学長連続講演会の一コマ
(平成21年6月)



「秋田の大学入試説明会in仙台」の
様子(平成21年6月)

〈「プロジェクト4A」ホームページ〉

<http://www.gaku.akita-u.ac.jp/project4a/>

平成21年度文部科学省科学技術振興調整費 「女性研究者支援モデル育成」事業 大学間連携と女性研究者支援 in 秋田

(実施期間：平成21年度採択～平成23年度)

「女性研究者支援モデル育成」事業とは？

女性研究者がその能力を最大限発揮できるようにするため、大学や公的研究機関を対象として、研究環境の整備や意識改革など、女性研究者が研究と出産・育児等の両立や、その能力を十分に発揮しつつ研究活動を行える仕組み等を構築するモデルとなる優れた取り組みを支援する事業です。

「大学間連携と女性研究者支援 in 秋田」とは？

本プロジェクトは、秋田大学女性研究者の研究環境の整備と、本学を拠点とする県内大学間連携による女性研究者支援の地域社会への環流を目的とします。

- 支援相談窓口を設置、コーディネーターを配置し、育児・介護等について柔軟な支援を行う。
- 秋田県内の大学と連携し、地域的女性研究者支援のための調査を実施し、代替要員制度を確立する。
- 女子大学院生に対する支援と、特に理工系女子育成のためのロールモデル事業を行い女性研究者の裾野の拡大を図る。
- FD・シンポジウム等を実施し、意識啓発を図る

平成21年度の活動実績について

- 平成21年5月14日…男女共同参画推進室を設置
- 平成21年8月3日…男女共同参画推進室の開室式を実施
- 平成21年12月23日…中高生対象イベント「あなたも、もしかしたら工学女子？」開催
- 平成22年2月2日…コンシェルジュ・デスク相談員研修を開催
- 平成22年2月5日…男女共同参画推進室リーフレット「coloconi～コロコニ～」発行
- 平成22年2月9日…男女共同参画推進室ホームページ「コロコニ」開設
- 平成22年2月12日…育児・介護中の支援員に関するニーズ調査の実施
- 平成22年3月5日…講演会「男女共同参画推進を考える」開催

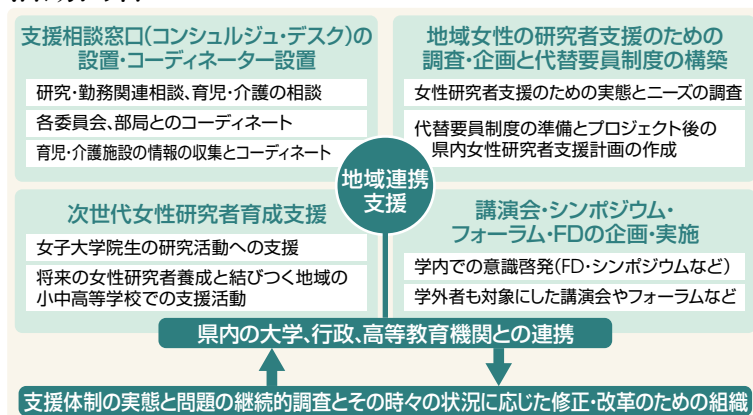


講演会(平成22年3月)



「あなたも、もしかしたら工学女子？」開催(平成21年12月)

活動内容

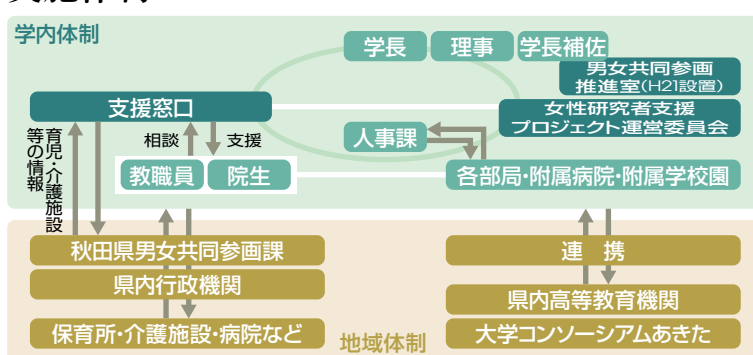


本プロジェクトは、同じ専門の教員が少ない・いない・領域が多く他県からの交通も不便という事情をかかえた中規模および小規模大学の女性研究者支援モデルになる。



パンフレット

実施体制



〈秋田大学 男女共同参画推進室
coloconi(コロコニ)コンシェルジュ・デスク〉

- TEL. (FAX) 018-889-3183
- 相談専用E-mail
coloconi@jimmu.akita-u.ac.jp
- ホームページ
http://www.akita-u.ac.jp/coloconi

お気軽にご相談ください。



社会貢献

秋田大学は、平成16年度の国立大学法人化を契機に、教育・研究・社会貢献を大学運営の重点事項として掲げ、公共的な知の拠点として大学開放事業を推進してきています。

本学の社会貢献活動の根底には、学生のみならず、生涯学習も教育の一環であり、社会の人々にも積極的に教育資源を提供していこうという思いが込められています。そのコンセプトを基に、下記の諸活動が展開されており、社会人向けのみならず高校生やその保護者、あるいは小・中学生を対象とした企画も実施しています。

秋田大学の社会貢献事業

■公開講座

生涯学習の一環として、市民・県民の皆様どなたにでも本学の良質な教育資源を提供するために、毎年多種多様なテーマで公開講座を開講しています。

※今年度開講の講座は秋田大学HPをご覧ください。



■秋田メディカル・サイエンスカフェ

秋田大学大学院医学系研究科の教員が最新の医学研究の成果をわかりやすく解説し、その後参加者の方々とその話題について自由に意見交換をする「秋田メディカル・サイエンスカフェ」を毎年開催しています。「カフェ」のように気軽に立ち寄っていただけるように会場には飲み物を用意し、くつろいだ雰囲気の中で医学知識に触れてもらう機会を提供しています。



■地域アカデミー

全国から受講生を募集、秋田の文化、自然、地下資源など「秋田」をテーマにした1週間の講義を行う地域アカデミーを実施しています。



■子ども見学デー

毎年夏休みに、小・中学生とその保護者の方を対象に「子ども見学デー」を実施しています。キャンパス内の見学や大学研究室での実験、天体望遠鏡を使った観察など、様々な体験を通じて、大学に対する関心を高めてもらうことが目的です。



■小・中学生等の大学訪問受入

総合学習や職場訪問等の一環としての小・中学生の大学訪問や、PTA研修等を随時受け入れております。職員が学内を案内したり質問に答えたりしながら、秋田大学を紹介します。また、要望があれば、研究室を訪問し教員や学生へインタビューすることも可能です。



■サテライト事業

秋田県内自治体や首都圏において、本学教員による講演会、子ども向け科学教室等を開催しています。平成21年度からは、本学と秋田県立大学、国際教養大学による3大学連携事業も行っています。



■自治体との連携

秋田大学が持つ教育・研究資源の提供と、地域活性化の促進を目的に、秋田県内自治体と連携協定を締結しています。「地域に根ざした大学」を目指し、公開講座の開催や学生の地域交流等による社会貢献を行っています。

平成22年5月26日現在、秋田県を含む8つの自治体と連携協定を締結しています。



秋田大学の地域力－地域に開いた大学の窓口「横手分校」

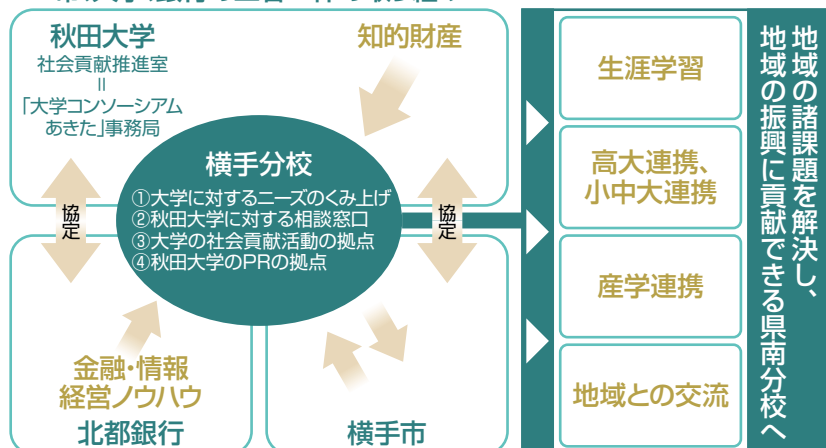
県内自治体との連携の一つとして、横手市との包括協定を平成21年2月7日に締結し、同年8月5日には、まちづくり推進や地域産業の活性化、教育・文化・芸術の振興など本学の有する資源開放の拠点として「秋田大学横手分校」を開設しました。分校に常駐する職員を窓口に、横手市民や企業からのニーズを汲み上げ、その解決に向けたコーディネートを行っています。さらに横手を発祥とする北都銀行も参画。大学の知的資源、銀行の持つネットワークや経営のノウハウなどを活用し、横手分校を拠点に三者が一体となって地域活性化に取り組んでいます。

■横手分校の活動

- 市民講演会 ●高大連携授業
- 大学オリジナルいぶりがっこづくり(学生地域交流)
- 間引きスイカの活用(産学連携)



市、大学、銀行の三者一体の取り組み



〈所在地〉

〒013-8601
秋田県横手市条理1丁目1番64号

〈連絡先〉

●TEL.0182-38-8304
●FAX.0182-33-6061

国際交流

秋田大学は世界に開かれた大学として国際交流の拡大を図っています。そのために、学生及び教職員の海外留学・派遣の促進と外国人留学生の受け入れの増加、受け入れ環境の整備等に努めています。平成20年2月には国際交流センターを設立し、戦略的な国際交流を進めるための体制が整いました。

外国人留学生に対する教育・生活支援の充実

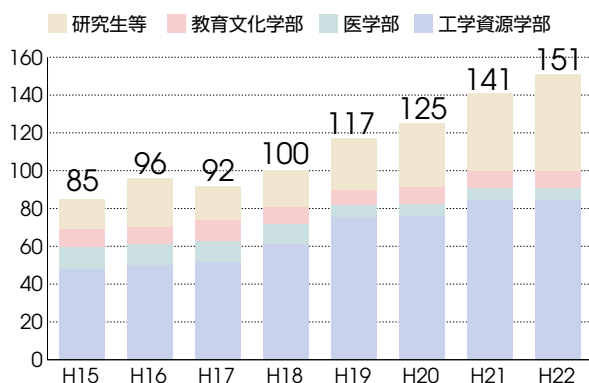
留学生数の増加に伴い、教育支援体制の整備も積極的に行っています。

平成21年度には私費外国人留学生のための、本学独自の奨学金(秋田大学私費外国人留学生奨学金)を創設しました。これにより、協定校等からの成績優秀な留学希望者に対し、奨学金を支給できるようになりました。

また、ODA対象国からの私費留学生に対し、勉強するために必要な資金を貸与できるよう、国際連合大学と協力大学の協定を交わしました。これまでに延べ62名の留学生に対し資金貸与を行っています(平成22年4月現在)。

日本学生支援機構の留学生交流支援制度(短期受入れ)に「秋田大学国際交流体験プログラム(AUEP)」が採択され、奨学金の受給枠が増えたことにより、協定校からの交換留学生の増加につながりました。このプログラムは平成22年10月から開始され、体験型のマルチ・リンガル授業や、英語による専門的な授業により、コミュニケーション能力の獲得や秋田の文化に対する理解を目指します。

〈留学生数の推移〉



平成22年4月には、多様な言語を自律的に学べるスペースとして「多文化交流ラウンジ」が新設され、海外研修報告会や留学生との交流イベント(「お茶っこ飲み」等)が行われています。



多文化交流ラウンジ

国際的視野を持った人材の育成

若手教育系職員を海外の大学等に派遣し、国際的な視野を持った人材の育成を目指すため、「秋田大学研究者海外派遣事業」を実施しています。平成21年度は3名がこの制度を利用し、海外の大学で研究を行いました。

また、学生に対しては、協定校などの海外の大学へ留学する際の経済的支援のため、「秋田大学学生海外派遣支援事業」を実施しています。これは往復に要する旅客運賃(片道10万円限度)を支給するもので、平成21年度は3名に対して支援を行いました。



国連大学育英資金受給者への学業報奨金授与式

世界に広がる学術ネットワーク

平成21年度は大学間協定を8校と、部局間協定を2校と締結しました。これにより、大学間協定は14カ国・地域29大学、部局間協定は9カ国・地域15学部等となりました(平成22年5月1日現在)。今後も、協定校との学術交流、学生交流を推進し、積極的な国際交流をすすめていきます。

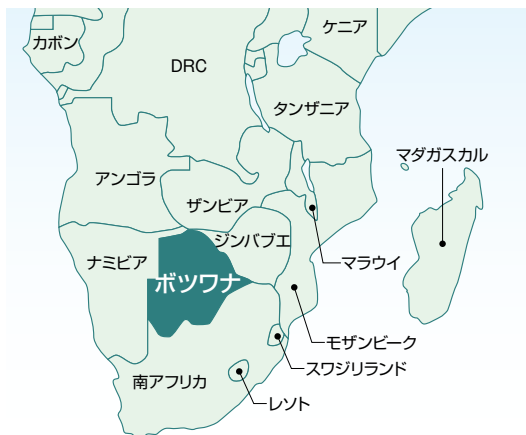


モンゴル科学技術大学との調印式(平成21年10月22日)

秋田大学の地球力－100年の知を「地球」の発展のために！

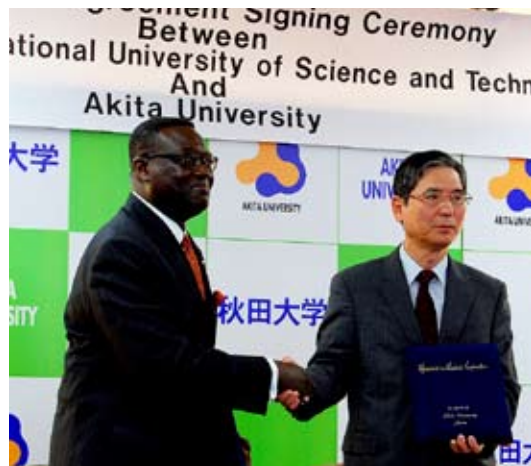
秋田大学は、昨年10月に開設した国際資源学教育研究センターを中心に、ボツワナ共和国に設立される大学づくりの支援を行っています。

ボツワナ共和国は、アフリカ南部に位置する人口約180万の国。ここにはニッケル鉱石などの、いわゆるレアメタルと呼ばれる貴重な地下資源が豊富に眠っているとされています。そこで、資源開発を担う人材を育成しようとボツワナ2番目の国立大学として2011年に「ボツワナ国際科学技術大学」が新たに設立されることになり、資源工学で実績の高い本学が、その支援にあたることになりました。教員の派遣、カリキュラム構成、施設整備等の対応を含め、幅広い領域で本学が有するノウハウをボツワナ共和国の新たな大学づくり、そして人材育成に活かしていくことになります。



明治43年の秋田鉱山専門学校設立から数え、約100年。秋田という地で培われてきた鉱山の技術が、ボツワナ共和国の国を挙げての事業に貢献することになります。

ボツワナ国際科学技術大学とは昨年10月23日、国際交流協定を締結。教職員・研究者・学生の交流促進をはじめ、資源開発等の研究において、相互に協力を図っていくことを誓い合いました。



協定の様子／秋田大学手形キャンパスにて
吉村昇学長(右)とクウェク・ベンティル学長

教育文化学部 教育学研究科

Faculty of Education and Human Studies
Graduate School of Education



教育文化学部

教育文化学部は、教員養成と地域社会、国際社会、環境関連分野で活躍できる人材の養成を目的とし、4つの課程で構成されています。

学校教育課程 次世代を育てる教員の養成

1. 幅広い社会的視野にたって、子どもの心を理解する柔軟性のある教員
2. 今日の教育的病理を克服し得る指導力・問題解決能力を備えた教員
3. 情報化社会に対応して、情報処理および活用能力を備えた教員
4. 地域的課題を理解し実践できる教員

地域科学課程 地域社会に貢献する人材の養成

1. 高齢化、過疎化、国際化、情報化の現状と課題をとらえ、地域社会の活性化に向けて、企業や行政など多様な分野で活動することができる人材
2. 住民の豊かな生活を保障する地域社会の構築のために、生活者の視点から、高齢化、少子化、過疎化の現状と課題をとらえ、地域活動計画を立案し実践できる人材
3. 地域文化を発見・再評価し、新たな文化資源・環境のあり方やその活用方法を提示できる人材

国際言語文化課程 国際交流に貢献する人材の養成

1. 日本・アジア・欧米各国の文化の交流と相互理解の促進をはかることによって、地域における国際交流に貢献できる人材
2. 環日本海地域の歴史文化と国際関係の理解にたって、当該地域の地域間協力・交流システムづくりに貢献できる人材
3. 海外諸国において、日本文化の深い理解とコミュニケーション能力を基礎として異文化間交流に携わる人材
4. 英、独、仏、露、中、朝鮮語、さらには古典ギリシア語、ラテン語、ヘブライ語の習得により、外国語を活かせる分野で活躍できる人材

人間環境課程 人間生存環境を構築する人材の養成

1. 人間の生活と自然資源・景観とのかかわりを総合的に理解したうえで環境アセスメントを行い、望ましいアメニティを提案することができる人材
2. 人間の生活を支える生物環境資源の調査・分析を行い、それらの資源の持続的利用・管理のための方策を提示できる人材
3. 自然と地域の相互関係を理解したうえで、自然生態系の保全のあり方を提示し得る人材
4. 人間の生存環境を数理的・工学的に理解・処理することを通して、自然環境の急速な変化に対応できる生活防衛システムづくりや情報化社会における人工環境のシステム構築に貢献できる人材

課 程	選 修	講 座
学 校 教 育	教科教育実践	教科教育学 音楽教育 美術教育 スポーツ・健康教育
	障害児教育	障害児教育
	発達科学	発達教育 教育心理学
地 域 科 学	政策科学	政策科学
	生活者科学	生活者科学
	文化環境	文化環境
国際言語文化	日本・アジア文化	日本・アジア文化
	欧米文化	欧米文化
	国際コミュニケーション	国際コミュニケーション
人 間 環 境	自然環境	自然環境
	環境応用	環境情報 基礎数理

教育学研究科

大学院教育学研究科は、平成元年に5専修で創設し、平成9年にすべての教科に対応する11専修を整えました。さらに平成14年に時代の要請を受けて心理教育実践専修を発足しました。本研究科は、21世紀の初等中等教育を担う優れた質の高い教員の養成を目的としており、現職教員の受け入れのほか、海外からの入学も積極的に進めています。また、修了者は学校現場、県教委等で指導的な役割を果たしています。

課 程	専 攻	専 修
修 士 課 程	学校教育専攻	学校教育専修
		心理教育実践専修
	教科教育専攻	国語教育専修
		社会科教育専修
		数学教育専修
		理科教育専修
		音楽教育専修
		美術教育専修
		保健体育専修
		技術教育専修
		家政教育専修
		英語教育専修



医学系研究科・ 医学部

Graduate School of Medicine
and Faculty of Medicine



医学系研究科

平成21年4月より大学院部局化し、大学院の教育研究を重視する機構改組を行いました。基礎と臨床の研究者が連携協力して、プロジェクト研究を推進することを目指します。

大学院医学系研究科では、最先端の医学・医療を学ぶ向上心と意欲を修得させるとともに、国際的視野に立ち、専攻分野あるいはその隣接領域について自立した研究活動を行い、高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有する研究・教育者あるいは高度職業人を養成します。

課 程	専 攻
博士課程	医学専攻
博士後期課程	保健学専攻
博士前期課程	
修士課程	医科学専攻



医学専攻

医学専攻は、人類の健康・福祉と生命科学の発展に貢献できる国際的視野を備えた研究者を養成し、高度先進医学・医療を推進することにより、地域における医学・医療の中核として役割を担い、医師・医学者を養成することを目的とします。

系	講 座	系	講 座
病態制御医学系	形態解析学・器官構造学	機能展開医学系	器官・統合生理学
	細胞生物学		心臓血管外科学
	細胞生理学		整形外科学
	器官病態学		皮膚科学・形成外科学
	分子機能学・代謝機能学		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
	生体防御学		脳神経外科学
	内分泌・代謝・老年内科学		循環器内科学・呼吸器内科学
	感染・免疫アレルギー・病態検査学		情報制御学・実験治療学
	麻酔・蘇生・疼痛管理学		小児科学
	放射線医学		産婦人科学
	眼科学		小児外科学
	精神科学	社会環境医学系	法医学
	微生物学		環境保健学
	救急・集中治療医学		公衆衛生学
			医科学情報学・国際交流学
腫瘍制御医学系	分子生化学	臨床協力部門	薬剤学
	分子病態学・腫瘍病態学		医療情報学
	消化器内科学・神経内科学		歯科口腔外科学
	血液・腎臓・膠原病内科学	※脳循環代謝動態学 連携大学院	
	消化器外科学		
	呼吸器・乳腺内分泌外科学		
	腎泌尿器科学		
	臨床腫瘍学		

保健学専攻

保健学専攻は、博士前期課程と博士後期課程を開設しております。

豊かな教養に支えられた人間性、学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探求・問題解決能力を養い、医学・健康科学に対する充分な理解と確かな医療技術のもとに、創造性に富む研究によって保健学の発展に貢献できる研究者、葛藤を持つ学習者に共感し援助できる教育者、高度な知識と技術と倫理性を備

えて実践の場で自立して研究活動ができ、人々の健康と福祉に貢献できる国際的視野を備えた高度専門職者を育成します。

講 座	分 野	講 座	分 野
基礎看護学講座	健康科学分野	地域・老年看護学講座	地域看護学分野
	基礎看護学分野		老年看護学分野
臨床看護学講座	成人看護学分野	理学療法学講座	基礎科学分野
	精神看護学分野		臨床理学療法学分野
母子看護学講座	母性看護学分野	作業療法学講座	基礎科学分野
	小児看護学分野		臨床作業療法学分野

医科学専攻

医科学専攻は、医学関連分野における領域横断的な諸問題の解決に有用な幅広いバックグラウンドを持った人材を養成します。

医学部

医学科

医学科では、医学や関連科学の知識や医療技術を確実に修得した上で、豊かな教養と高い倫理性を身に付け、臨床研修や基礎研究を始めるために確かな意欲と能力を持つ人材を育成することを目標としています。同時に、高度先進医学・医療を推進し、地域社会における医療・福祉の充実に貢献することも目指しています。

平成21年4月に大学院部局化を行い4つの系と1つの協力部門に再編成しました。また、バイオサイエンス教育・研究センターと有機的に連携しながら、教育および研究の充実・発展を図っています。医学部の教育は、大学院教員が兼務する医学教育部が行います。

寄附講座	寄附者
総合地域医療推進学講座	秋 田 県 ※平成20年10月1日～平成25年3月31日
地域医療連携学講座	秋 田 県 ※平成22年7月1日～平成26年3月31日
腎置換医療学講座	アステラス製薬、中外製薬、日本化薬、扶桑薬品工業、大沢商事 ※平成20年10月8日～平成25年10月7日
病態代謝栄養学講座	三和化学研究所 ※平成22年4月1日～平成25年3月31日

保健学科

保健学科は、看護学専攻・理学療法学専攻・作業療法学専攻の3専攻からなります。

保健学科は、豊かな感性、高い教養と倫理性、医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身に付け、国民の健康と医療・福祉に貢献できる医療技術者、並びに教育・研究の発展に寄与できる創造性豊かな人材を育成します。

また、教育の礎となり、健康科学に広く関わる知識と技術の発展に資する研究を目指し、社会に貢献します。

工学資源学研究科 工学資源学部

Graduate School of Engineering and Resource Science
Faculty of Engineering and Resource Science



工学資源学研究科

大学院工学資源学研究科は、教育プログラム編成の自由度を増し教育研究の活性化を図るため、平成22年4月より大学院部局化に移行しました。工学資源学部の設立理念に立ち、新しい研究領域を創出するため、学部

○前期課程各専攻

国際的に活躍する資源専門技術者、環境技術や先端化学技術に貢献する専門技術者、先端機能材料の開発を目指す専門技術者、マルチメディア社会に即応できる専門技術者、人と環境にやさしい機械システムの開発に貢献できる専門技術者、創造的エレクトロニクス専門技術者、ノーマライゼーション

理念で社会基盤設計を行う専門技術者の養成。
平成19年4月には「学び直し」の機会を創出し、再チャレンジを目指す若者、女性、高齢者等の有識者、退職者等の幅広い社会人を支援するため、博士前期課程に「再チャレンジ支援プログラム」として、「環境リスクコミュニケーター養成コース」と「テクノマイスター養成コース」を開設。平成20年4月には専門知識を事業・経営に活かしてマネジメント力を発揮できる人材養成のため研究科に「MOTコース」を開設した。

課程	専攻	講座
博士前期課程	地球資源学	応用地球科学 地球システム工学
	環境物質工学	素材プロセス工学 分子機能化学 環境・素材設計工学 化学システム学
	材料工学	材料物性学 エネルギー材料学 知能材料学 材料開発工学
	情報工学	人間情報工学 数理情報工学 産業情報工学
	機械工学	機械物理学 システム設計 機械ダイナミクス ロボティクス・福祉工学
	電気電子工学	電気エネルギー工学 知能情報通信工学 光・電子デバイス工学 制御システム工学
	土木環境工学	福祉環境工学 地域環境工学 環境構造工学

○後期課程各専攻

地球の資源・物質環境を考えた総合的な資源学の体系化、物質に関する広範囲の知識を総合した開発・組織的なものづくりと生活基盤整備、電気電子技術を基盤とした情報技術の開発。

平成19年10月には、国際的に活躍する人材養成のため「英語による特別コース」を開設。

課程	専攻	講座
博士後期課程	資源学	資源地球科学 環境資源サイクル工学 資源環境学
	機能物質工学	機能材料工学 環境応用化学
	生産・建設工学	生産システム工学 福祉システム工学 社会基盤工学
	電気電子情報システム工学	電気情報基盤システム工学 電子情報基盤システム工学

工学資源学部 通信教育講座

秋田大学工学資源学部には、国立大学法人唯一の「社会通信教育講座」があります。昭和23年の開講以来、伝統と歴史を背景に、約1,600名以上の修了生を社会に輩出しています。

受講により、直接国家資格等を得ることはできませんが、現在、資源系、材料系、電気電子系の基礎および専門を学べる7つのコースと、科学技術に関する教養的な知識を得るための一般科学技術コースの、併せて8つのコースを開設しています。

工学資源学部

工学資源学部は、地球環境と調和のとれた資源学と、豊かな人間性を支える工学の発展に寄与できる技術者および研究者の養成を行います。

資源系では地球規模となった資源・環境・エネルギー問題の解決のための教育・研究の発展を図り国際的に活躍できる資源技術者の養成を行います。一方、工学系においては、先端分野・学際分野への展開を継続しながら、地域の課題である高齢化への対応や新たな産業の創出などへ寄与できる教育・研究分野の充実を図り、地域の産業を担う人材の養成を行います。

平成21年には、リサイクルと製錬技術とを融合した資源循環型の技術開発に貢献することを目的に、「リサイクルプロセッシング講座」(寄附講座)を設置しました。

教育と研究の基本的な視点

1. グローバリゼーション時代の資源学への対応
2. 社会の養成に応える人材の養成
3. 地域社会への積極的な貢献

学部の特色

1. 幅広い入学者の受け入れ
2. 独創性、起業家精神の育成
3. 先端的研究の進展
4. 国際的な資源技術者の養成
5. 地域社会の問題への取り組み



具体的な教育カリキュラムの編成

1. 応用力や創造性を重視した専門教育(創造工房実習、フィールド実習)
2. 社会における科学技術の役割の実習(環境科学、技術者倫理、技術史、鉱業史)
3. 国際性を養う専門教育(海外実習、テクニカルコミュニケーション、外国文献講読)
4. プロポーザル能力の養成(研究プロポーザル)
5. 入学から卒業までの継続性を重視した4年一貫教育(初年次ゼミ)
6. 情報処理能力の養成(情報処理の技法)
7. 職業意識を高める実践教育(インターンシップ)
8. 大学、学部、学科を越えた履修範囲(自由科目、他大学との単位互換)

学 科	講 座
地球資源学科	応用地球科学 地球システム工学
環境応用化学科	素材プロセス工学 環境・素材設計工学 分子機能化学 化学システム学
生命化学科	基礎生命化学 応用生命化学
材料工学科	材料物性学 知能材料学 エネルギー材料学 材料開発工学
情報工学科	人間情報工学 産業情報工学 数理情報工学
機械工学科	機械物理学 システム設計 機械ダイナミクス ロボティクス・福祉工学
電気電子工学科	電気エネルギー工学 知能情報通信工学 光・電子デバイス工学 制御システム工学
土木環境工学科	福祉環境工学 環境構造工学 地域環境工学

寄附講座	寄附者
リサイクルプロセッシング講座	DOWAホールディングス株式会社 ※平成21年4月1日～平成24年3月31日

教育文化学部附属学校園

- 幼稚園 ○小学校 ○中学校
- 特別支援学校

センター等

- 評価センター ○教育推進総合センター
- 教員免許状更新講習推進センター
- 学生支援総合センター ○総合技術部
- 国際交流センター

附属図書館

鉱業博物館

学内共同教育研究施設等

- 産学連携推進機構 ○総合情報処理センター ○放射性同位元素センター
- 環境安全センター ○ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
- バイオサイエンス教育・研究センター ○戸賀臨海実習所 ○乳頭ロッジ
- ベンチャーインキュベーションセンター
- 国際資源学教育研究センター

大

学

医学部附属病院

学部等附属教育研究施設

○教育実践研究支援センター ○鉱業博物館 ○環境資源学研究センター
○ものづくり創造工学センター ○地域防災力研究センター

横手分校

東京サテライト

福利厚生施設等

○保健管理センター ○大学会館・手形キャンパス
○学生寮 ○本道会館・本道キャンパス
○国際交流会館 ○留学生会館

インフォメーションセンター

体育施設等

○陸上競技場 ○野球場 ○サッカー場 ○ハンドボール場
○大体育館 ○小体育館 ○柔剣道場 ○弓道場 ○テニスコート ○プール(25m) ○運動場

施

設

医学部附属病院



外来・中央診療棟(正面玄関)

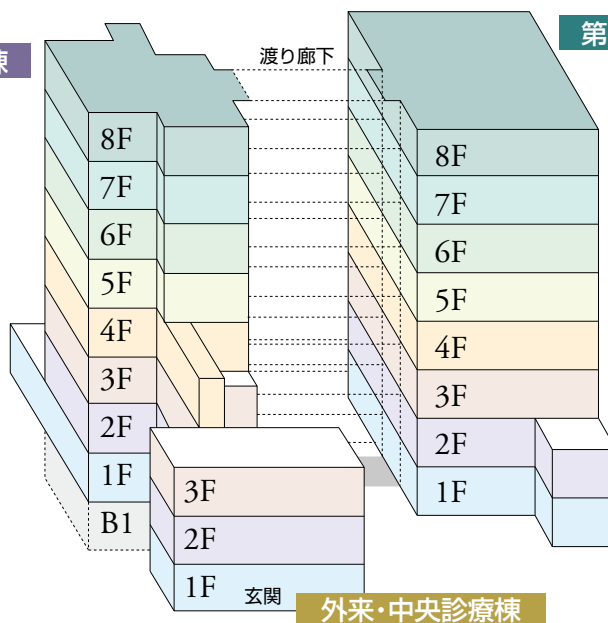
医学部附属病院は、教育研究施設であるとともに、地域における医療機関の中核として各専門分野にわたる豊富な知識と最新の医療機器等による診療機能を駆使する医療機関であり、平成6年には特定機能病院として承認を受け、地域に対する指導的役割を担う病院として、今後なお一層地域社会への貢献を行います。

また、患者にとって安心できる医療環境の下で、良質で高度な医療を適切に提供することをとおして、優れた医療人の育成と医学研究の進歩のため積極的に役割を果たすとともに、地域医療・保健活動の中心としての役割を担い、さらに国際的にも貢献できるよう努めます。

〈病院案内図〉

第一病棟

第二病棟



第一病棟	
8F	整形外科 神経内科
7F	皮膚科 食道外科 消化器外科 麻酔科
6F	眼科
5F	小児科 小児外科 新生児特定集中治療室(NICU)
4F	脳神経外科
3F	集中治療部(ICU) 中央材料部 中央手術部
2F	血液浄化療法部 輸血部 中央検査部 臨床工学センター 医療安全管理部 飲食スペース 理容室
1F	放射線診断科 放射線治療科
B1	放射線治療センター SPDセンター 栄養管理部

外来・中央診療棟			
病理部 精神科	医療情報部 皮膚科	医療安全管理部	電子計算機室
消化器内科 神経内科 循環器内科 呼吸器内科 血液内科 腎臓内科	リウマチ内科 糖尿病・内分泌内科 老年内科 総合診療部 脳神経外科 眼科	歯科口腔外科 麻酔科 看護部 薬剤部 小児科	心療センター 治験管理センター 感染制御部 相談支援センター 外来化学療法室
外来受付・会計 入院案内 医事課(医療サービス室) 耳鼻咽喉科 泌尿器科 産科婦人科 売店	中央病歴室 栄養相談室 整形外科 消化器外科 腫瘍内科 呼吸器外科 サービスコーナー	食道外科 乳腺・内分泌外科 小児外科 心臓血管外科 外来薬局 中央放射線部	放射線診断科 放射線治療科 リハビリテーション部 緩和ケアセンター リハビリテーション科 コーヒショップ

第二病棟	
血液内科 腎臓内科 リウマチ内科	
呼吸器内科 耳鼻咽喉科 呼吸器外科 乳腺・内分泌外科	
消化器内科 老年内科 糖尿病・内分泌内科	
産科婦人科 周産母子センター	
循環器内科 心臓血管外科	
精神科	
泌尿器科 歯科口腔外科	
救急部 救急科 時間外救急 内視鏡・超音波センター	

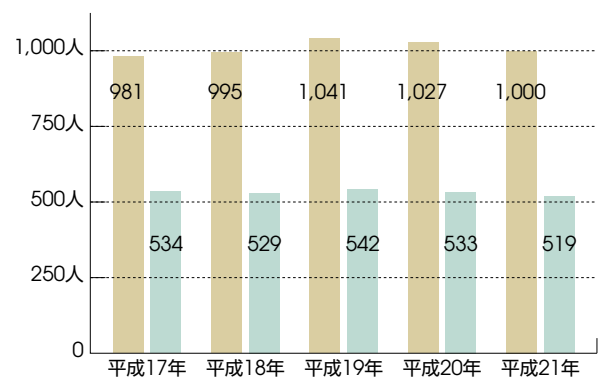
〈診療科別入院及び外来患者数〉

平成21年度

区分	入 院		外 来	
	延患者数	一日当平均患者数	延患者数	一日当平均患者数
消化器内科	13,244	36	19,889	82
神経内科	3,326	9	5,337	22
循環器内科	11,677	32	15,902	66
呼吸器内科	5,576	15	6,056	25
血液内科	10,692	29	5,401	22
腎臓内科	989	3	2,066	9
リウマチ内科	1,508	4	5,450	23
糖尿病・内分泌内科	2,130	6	10,315	43
老年内科	1,196	3	4,767	20
消化器外科	9,758	27	4,299	18
呼吸器外科	3,436	9	1,091	5
食道外科	5,336	15	1,260	5
乳腺・内分泌外科	1,976	5	4,706	19
心臓血管外科	9,420	26	1,880	8
脳神経外科	9,929	27	7,272	30
小児外科	2,213	6	2,243	9
小児科	9,804	27	8,747	36
産科婦人科	13,869	38	21,134	87
精神科	11,134	31	23,686	98
整形外科	13,550	37	12,687	52
皮膚科	4,419	12	15,676	65
泌尿器科	13,870	38	14,004	58
眼科	9,559	26	15,670	65
耳鼻咽喉科	12,116	33	14,436	60
放射線診断科	0	0	433	2
放射線治療科	4,794	13	1,973	8
麻酔科	17	0	3,004	12
リハビリテーション科	0	0	0	0
歯科口腔外科	3,756	10	12,637	52
計	189,294	519	242,021	1,000

〈年度別1日平均患者数〉

● 外来患者数 ● 入院患者数



〈中央診療施設等〉

● 中央検査部 ● 中央手術部 ● 中央放射線部
 ● 中央材料部 ● 集中治療部 ● 救急部 ● 輸血部
 ● リハビリテーション部 ● 医療情報部
 ● 血液浄化療法部 ● 中央病歴部
 ● 周産母子センター ● 病理部 ● 総合診療部
 ● 治験管理センター ● 臨床工学センター
 ● 移植検査センター ● 卒後臨床研修センター
 ● 医師キャリア形成支援センター
 ● 内視鏡・超音波センター ● 遺伝子医療部
 ● 腫瘍センター ● 相談支援センター ● 化学療法部
 ● 緩和ケアセンター ● 心療センター ● 栄養管理部
 ● 肝疾患相談センター

● 薬剤部 ● 看護部 ● 医療安全管理部 ● 感染制御部



第2病棟

附属図書館

University Library



本館(正面玄関)

●附属図書館は本館(手形キャンパス)と医学部分館(本道キャンパス)があり、図書・雑誌・電子情報等の学術資料の体系的な収集管理と、その蓄積された情報の提供を行っています。

●地域に開かれた図書館として学外の方も気軽に利用できる図書館を目指しています。図書館の閲覧サービスや館外貸出サービスが受けられます。また、平成20年度からは、秋田県立図書館との連携による「秋田県図書館資料横断検索システム」等を活用した貸出サービスやレファレンスサービスの充実を図っています。



医学部分館情報検索スペース

〈開館時間〉

区 分	本館・医学部分館	春季・夏季・冬季 休業期間中
平 日	8:30～21:00	8:30～17:00
土・日・祝	10:00～17:00	閉 館

●蔵書は本館が約397千冊、医学部分館が約103千冊となっています。附属図書館では次のようなサービスを行い、学生・教職員の学習・教育・研究の支援をしています。

- 閲覧サービス
- 貸出サービス
- 文献複写サービス
- 蔵書検索サービス
- 各種文献データベースサービス
- 電子ジャーナル
- 図書館ホームページ



特別コレクション。
18世紀に出版された
シェイクスピア全集等を
所蔵しています。



本館ブラウジング
コーナー



本館2階閲覧室

●詳細についてのお問い合わせは

〈本館・利用サービス係〉

電話／018-889-2279 E-mail : riyos@lib.akita-u.ac.jp

〈医学部分館：図書係〉

電話／018-884-6052 E-mail : ibun@lib.akita-u.ac.jp

〈附属図書館ホームページ〉

<http://www.lib.akita-u.ac.jp/>

教育文化学部附属学校園

Affiliated School

平成22年5月1日現在

区 分		総定員	学級数	現 員						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
附属幼稚園	2年保育	100	5	—		〈4歳児〉 44		〈5歳児〉 34		78
	3年保育	60		〈3歳児〉 22		〈4歳児〉 21		〈5歳児〉 19		62
附属小学校		720	18	99	105	104	107	104	98	617
附属中学校		480	12	146	142	142	—			430
附属 特別支援学校	小学部	18	3	4		3		5		12
	中学部	18	3	7	4	6	—			17
	高等部	24	3	10	11	10	—			31



●附属幼稚園



●附属小学校



●附属中学校



●附属特別支援学校

鉱業博物館

Mineral Industry Museum



〈入館案内〉

- 開館時間／9:00～16:00
- 休館日／年末年始(12月26日～翌年1月5日)
- 入館料／〈個人〉大人250円
〈団体(30人以上)〉大人190円
〈高校生以下〉無料

〈平成22年度鉱業博物館行事〉

- 【前期企画展】「地球科学」
〈期間〉7月中旬～9月上旬
- 【後期企画展】「情報工学」
〈期間〉10月中旬～11月下旬
- 「ジュニアサイエンススクール」
〈期間〉8月上旬(2日間) 〈対象〉小学校高学年～中学生



1階展示室 黒鉱(秋田県大館市鍋釣鉱山)



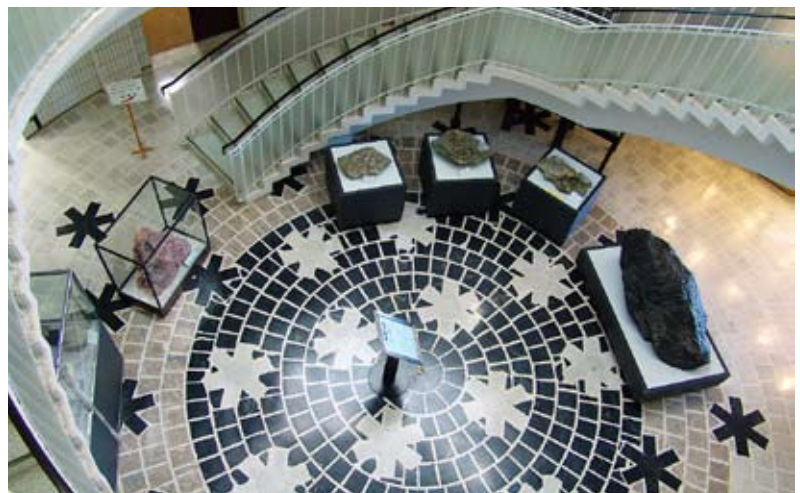
サイエンスボランティアによる案内



エントランスロビー



平成21年度ジュニアサイエンススクール「地層を観察して、はぎ取り標本を作ってみよう!」(男鹿市)



中央ホール

学部等附属教育研究施設 Facilities for Education and Research



● 教育実践研究支援センター 〈教育文化学部〉

【目的等】

学校教育における児童生徒・教師等の発達・学習及び教育臨床に関する研究並びに教育支援

【研究部門等】

- 学校教育研究部門
- 教師発達研究部門
- 教育臨床研究部門



● 鉱業博物館 〈工学資源学研究科〉

【目的等】

- 鉱業に関する研究調査
- 鉱業関係の博物館資料の収集保管および展示

【研究部門等】

- 標本資料／約14,500点
- 模型／約200点



● 環境資源学研究センター 〈工学資源学研究科〉

【目的等】

循環型社会における環境資源学の創成・発展および新素材の機能開発並びにその地球環境との関わりを総合的に研究

【研究部門等】

- 地球環境研究分野
- 資源環境型地域社会形成研究分野
- 環境調和型材料プロセス研究分野
- 生物・工学融合研究分野



● ものづくり創造工学センター 〈工学資源学研究科〉

【目的等】

- ものづくり教育の推進と創造型エンジニアの育成
- 地域社会への貢献

【研究部門等】

- 創造工学教育部門
- 教育・研究支援部門
- 地域連携・広報部門
- 分析・評価部門



● 地域防災力研究センター 〈工学資源学研究科〉

【目的等】

自然災害の防止・軽減に資する研究を推進するとともに、地域の防災・減災に関する研究と支援等を通して、安全・安心な地域社会の形成に貢献する

【研究部門等】

- 地震災害分野
- 津波災害分野
- 河川災害分野
- 斜面災害分野
- 火山災害分野
- 情報・計画分野

セ ン タ ー 等

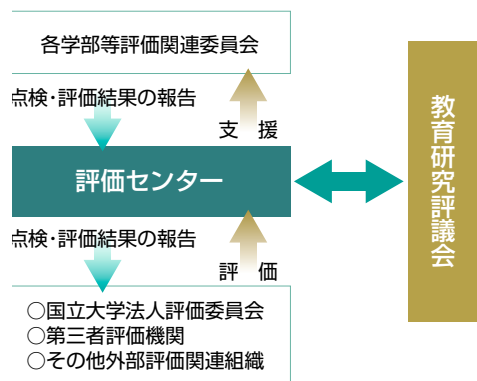
評 価 セ ン タ ー

＜目 的＞

1. 秋田大学における自己点検・評価活動とその改善努力の支援
2. 評価とそのシステムについての研究・開発

体制および業務

- 秋田大学の自己点検・評価活動の支援
- 秋田大学の中期目標・中期計画の実施および評価についての対応
- 外部評価および第三者評価に対応した学内調整や取りまとめ、報告書の作成
- 学内の教育・研究活動、自己点検・評価活動の成果や経緯を示す資料の収集・整理・蓄積、情報の公開
- 「大学評価」についての方法やシステムの開発
- 評価活動に関わる広報活動
- 評価活動に関わる研究会・ワークショップの開催
- 評価活動の結果を各部局に還元し、各部局と連携をとりながら、教育・研究、管理運営の改善に向けた支援・研究活動を実施

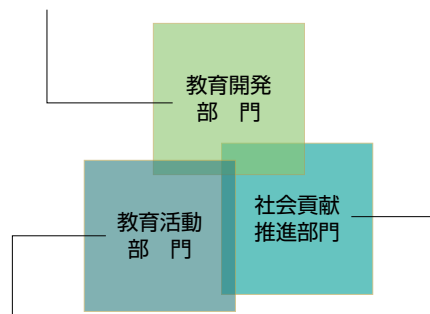


教育推進総合センター

＜目 的＞

1. 教養基礎教育を中心とする教育体制の構築と教育活動の推進
2. 教養基礎教育および専門教育の調査・研究・開発による改善・充実
3. 社会・地域に貢献することおよび生涯学習社会に対応した諸事業を継続的に行う

- 教養基礎教育を中心とする教育内容・教育方針・教育環境に関する調査・研究・開発・評価
- 教育活動に関するファカルティ・ディベロップメント(FD)活動



- 教養基礎教育を中心とする大学教育の実施・運営、カリキュラムの企画・立案
- 履修上の教育支援
- 社会・地域に貢献する事業の企画・立案・実施
- 生涯学習社会に対応した諸事業の企画・立案・実施

教員免許状更新講習推進センター

＜目 的＞

1. 教員免許状更新講習の企画・実施
2. 県内の教育委員会、大学等諸機関との連携

業 務

- 企画、立案、調整および実施
- 講習内容および実施方法の改善
- 広報活動
- 秋田県内の大学および短期大学並びに教育委員会等関係機関との連携

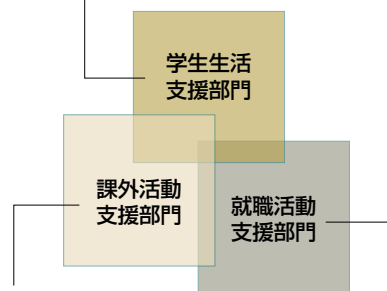


学生支援総合センター

〈目 的〉

1. 種々の生活相談および授業料免除や奨学金交付推薦等の生活支援
2. 大学祭等の課外活動支援および課外活動施設の整備・充実の推進
3. 就職ガイダンスの実施および就職情報提供等の就職活動支援

- 学生相談およびメンタルヘルス相談
- 授業料等の免除および猶予
- 学生教育研究災害傷害保険(学研災)
- 奨学金
- 学生寮 ●学生表彰



- 学生が行う団体活動の支援
- 学生の研修を企画・実施
- 学生が計画した行事を支援
- 課外活動施設の管理・運営
- 大学会館および乳頭ロッジの管理・運営
- 就職ガイダンスの実施
- 就職情報の分析および提供
- 就職相談
- 就職先の開拓
- キャリア形成入門やインターンシップの実施

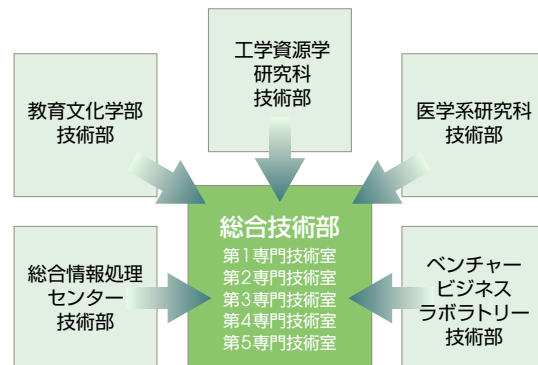
総合技術部

〈目 的〉

1. 教育研究活動の技術支援を全学的に推進
2. 技術系職員が持つ専門技術を本学の共通の財産として継承・発展させ、その能力および資質等の向上を図るとともに優れた人材を確保

業 務

- 各部局技術部並びに技術系職員に関わる中期計画の作成および評価
- 総合技術部の全学的な研修の企画・実施
- 専門技術に関する情報収集・発信
- 専門技術の向上・研鑽
- 技術相談および部局間調整等
- その他総合技術部の目的を達成するために必要な事項



組 織

- 第1専門技術室 …… 製作・操作技術系
- 第2専門技術室 …… 測定・分析技術系
- 第3専門技術室 …… 生物・生体技術系
- 第4専門技術室 …… 管理・情報技術系
- 第5専門技術室 …… 教育・環境技術系

国際交流センター

〈目 的〉

1. 国際交流に関する企画・広報活動
2. 国際学術交流の推進
3. 国際教育交流の推進

- 国際化戦略策定
- 広報および地域の国際化支援
- 国際交流協定校の拡充



- 留学生支援
- 派遣留学生支援
- 言語教育

学内共同教育研究施設等



●ベンチャーインキュベーションセンター(AU-VIC)

ベンチャーインキュベーションセンターは、地域にねざし、新たな起業を目指す、企業・大学等・行政の産学官一体となった共同研究拠点を整備するために平成22年4月、設置しました。①秋田県内の科学技術人材の強化と高能力化、②秋田大学発の企業化研究、③地元企業の活性化による雇用の増大、④学生への教育効果の増大、⑤国際的企業化の発展を目指しております。



●国際資源学教育研究センター

平成21年10月1日に、国際的視野を持つ資源人材の養成のための教育研究拠点となるべく設立されました。

資源保有国からの資源系大学・研究所等の設立や技術協力・人材養成の要請への対応、さらには、国内の資源系大学生や大学院生、我国や資源保有国の資源関連企業からの研修生や研究生を受け入れ、本学工学資源学研究科の地球資源学科、環境応用学科や大学院資源学関連の各専攻とも連携して、集中的に教育する実践的かつ高度な資源開発人材養成等を目指しています。



●産学連携推進機構

大学の優れた研究成果を切れ目なく実用化につなぎ、イノベーション創出や社会への成果還元に資するため、学内外に向けた産学連携の総合支援窓口としてのワンストップサービスにつとめています。

産学連携・共同研究部門と知的財産部門があり、両部門の共同で、研究シーズの発掘・顕在化から産業界等との共同研究・受託研究および研究成果の技術移転まで社会と連携した活動を推進しております。

これらの活動を円滑に進めるため、科学技術相談、技術セミナー開催、研究シーズと地域ニーズとのマッチング活動、知的財産権保護等の産学連携活動をしております。



●ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

平成13年5月に研究棟が竣工して以来、産業界の将来のニーズを捉えた新たなシーズ技術の開発に基づく新産業の創出を目指して、「希少元素物質に注目した新リサイクル技術の開発と高度素材設計に関する研究」をプロジェクト課題として、IT産業やナノテクノロジーに必要な不可欠な希少元素に着目し、ベンチャー・マインドをもつ創造的な大学院学生や若手研究者の育成も視野にいたれた教育研究活動を、全学から研究員を募り、研究設備の充実を図りながら行っています。同時に、地域社会・地域産業との連携や国内外の教育研究機関との共同研究により研究拠点形成を進めています。



●総合情報処理センター

約270台の教育用情報端末と高速な情報ネットワークを中心に、学内の情報環境が機能的に活用されるように管理しています。学生や教職員が誰でも利用出来る無線LANネットワークや、高度な科学技術計算を支援する高速演算サーバの運用も行っています。



●バイオサイエンス教育・研究センター

これまであった医学部附属動物実験施設・医学部附属実験実習機器センター・医学部R1センターの3つの共同教育研究施設を統合して、大学のみならず地域の研究施設や医療施設、企業の研究者も効率的に利用できる学内共同教育研究施設として平成16年度に設置されました。

ライフサイエンス研究のための最新解析機器の提供、バイオ関連実験サービスの提供、実験動物の適切な管理、放射性同位元素を用いた実験環境の提供などのサービス業務を行っているほか、学内のバイオ関連研究の適正審査、福祉・医療技術の開発・応用研究、新規実験動物の作成・開発研究などの研究活動も同時に展開しています。



●放射性同位元素センター

放射性同位元素は、正しく取り扱い例えば化学的反応メカニズムなどを解明する上で極めて強力なツールとなります。本センターは、放射性同位元素を使用した研究・教育に対する支援および放射線取扱業務に関する安全管理を目的として運営されています。化学実験室、 -10°C および 4°C 低温実験室、放射能測定室、機器測定室、R1貯蔵室などからなり、より高度な研究環境を提供しています。



●環境安全センター

教育研究および診療に伴い生じる有害物質を含んだ廃液等の処理を行い環境保全に資するため、有害廃液等を無機系廃液、有機系廃液および有害固形廃棄物に区分し、分別収集により、これらの適性処理・処分を行っています。多種・多様な性状を有する廃液等は研究機関特有であるため、処理技術の検討・改善を行い適正処理に努めています。また、学内外において環境科学等に係る教育・実習および共同研究を実施しています。



●戸賀臨海実習所

学芸学部(現教育文化学部)創立90周年並びに手形地区統合記念事業として、卒業生、教職員等の協力で昭和39年12月に男鹿半島戸賀湾の一角に建設された施設で、研修室や50人収容の宿泊室などを整備し、男鹿半島の自然、地質、生物、人文科学等の調査の基地として活用できるだけでなく、学生の研修および課外活動並びに職員の研修および福利厚生に資することを目的としています。



●乳頭ロッジ

本学学生の研修・課外活動、職員の研修および福利厚生施設として、平成8年11月に設置された施設です。同施設は、十和田八幡平国立公園の南部、乳頭温泉郷(秘湯全国の温泉100選)の一角にあり、周辺は高山植物の宝庫といわれる秋田駒ヶ岳、深度日本一の田沢湖など、また乳頭キャンプ場、たざわ湖スキー場など豊かな自然環境に恵まれ、四季を通じて多様な活動が可能となるところです。

福利厚生施設等

Welfare Facilities



健康診断

●保健管理センター

- 定期健康診断／新入生、卒業・修了年次生、医学部(全学年) ……4月初旬～中旬
- 2・3年次(教育文化・工学資源学部) ……5月中旬
- 健康相談／内科の健康相談 ……毎日(午後)
- 悩み事、心の健康相談 ……毎日(午後)
- 眼科、耳鼻咽喉科、婦人科の健康相談 ……毎月1回
- 応急処置 ● 健康診断証明書の発行



手形キャンパス内の
大学会館(クレール)

●大学会館・手形キャンパス

- 開館時間／平日8:30～20:00、土曜日11:30～13:30(食堂のみ)
- 食堂(700席) ● 食品・弁当コーナー
- 書籍・文具コーナー ● 喫茶室(12席)
- アメニティーコーナー(自由に談話し憩うための場)
- 研修室(3室)、和室(2室)
- アルバイトセンター



●本道会館・本道キャンパス

- 開館時間／平日9:00～22:00
- 食堂(110席) ● 売店
- 研修室(実習室)(60席) ● 談話室(30席)
- 会議室(大会議室・小会議室) ● 和室



西谷地寮

●学生寮

区 分	手形寮(女子)	本道寮(女子)	西谷地寮(男子)
面 積	745㎡	1,121㎡	3,170㎡
居室形態	個 室	個 室	個 室
定 員	40人	31人	130人



●国際交流会館

- 居室／単身室(外国人留学生用10室、外国人研究者用5室)、夫婦室(外国人研究者用3室)、家族室(外国人研究者用2室)
- 入居対象者／・本学に在学する外国人留学生・本学において教育研究に従事する外国人研究者およびその配偶者・子女・その他館長が適当と認めた者



●留学生会館

- 居室／単身室(27室)、夫婦室(3室)
- 入居対象者／・本学に在学する外国人留学生およびその配偶者・その他館長が必要と認めた者

体育施設等

Sports Facilities

施 設	面 積			備 考
	手形地区	本道地区	保戸野地区	
陸上競技場	24,637㎡	20,909㎡	—	400m/6コース、メイン/8コース
野球場	20,378㎡		—	—
サッカー場	陸上競技場と併用	陸上競技場と併用	—	サッカー、ラグビー(本道地区はサッカー、ラグビー、アーチェリー、準硬式野球)
ハンドボール場	(1,200㎡)	—	—	陸上競技場を含む
大体育館	2,591㎡	1,079㎡	3,588㎡	バスケットボール、バレーボール、バドミントン、柔道、剣道、合気道(本道地区はバレーボール、バドミントン、バスケットボール、卓球、サロンのフットボール)
小体育館	650㎡	—	—	体操、卓球、空手道
柔剣道場(武道場)	—	—	373㎡	柔道、剣道
弓道場	149㎡	—	—	的場(44㎡)は含まない
テニスコート	(5面)3,238㎡	(5面)3,614㎡	—	—
プール(25m)	800㎡	—	—	—
運動場	—	—	14,923㎡	—



体育館



野球場

東京サテライト

Tokyo Satellite

受験生への情報提供を行うとともに、産学官連携の推進や首都圏での社会貢献活動を行うための拠点として、「秋田大学東京サテライト」を設置しています。

〈業務紹介〉

1. 受験生への情報提供

- 入試説明会、各学校への情報の提供、訪問活動

3. 社会貢献活動の支援

- 講演会・セミナーなどの開催

2. 産学官連携活動の支援

- 共同研究、科学技術相談の窓口
- 学術情報、技術シーズの提供
- シンポジウム・学会・研究会などの学術会議の開催
- 研究者、研究成果の紹介

4. 就職活動の支援

- 企業からの求人の申込
- 在学生への就職情報の提供

5. 同窓会活動の支援

- 同窓会への大学情報等の提供

- 所在地 〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6
キャンパス・イノベーションセンター東京 6階 604号(20㎡)
- 電話 03-5440-9104(FAX兼用)
- ホームページ
<http://www.akita-u.ac.jp/honbu/general/satellite.html>



キャンパス・イノベーションセンター東京

インフォメーションセンター

Information Center

秋田大学の教育・研究内容等をパネルや映像で紹介します。常設の「成田為三」「南木佳士」コーナーには遺品・作品等を展示しています。また、学生や教職員による企画展を随時開催しています。

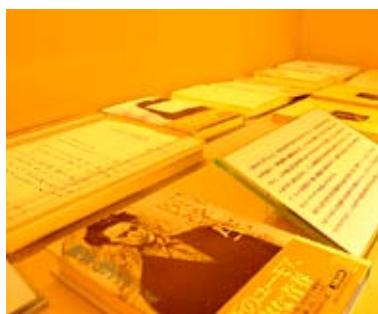


● 成田為三

秋田県米内沢村(現在の北秋田市)出身の作曲家であり、「浜辺の歌」「秋田県民歌」など、300曲以上の優れた作品を世に残しています。成田為三が本格的に作曲の勉強をしたのは、秋田県師範学校時代であることが研究により明らかにされています。

● 南木佳士

秋田大学医学部を昭和52年に卒業(医学部第二期生)し、長野県佐久総合病院で医師を続けながら、作家活動を行っています。第100回芥川賞受賞作「ダイヤモンドダスト」、2002年に映画化された「阿弥陀堂だより」、新設間もない秋田大学医学部の様子を描いた「医学生」などの作品があります。



就職支援活動

Career Development

1. 学生支援総合センターでの取り組み

学生の皆さんにとっての充実した学生生活を保障することを目的とした学生支援総合センターには、就職活動支援部門が設けられ、そのなかで就職・キャリア形成推進室が皆さんの就職活動を支援しています。皆さんが自信をもって自らの進路を確定し、かつその希望を実現できるように、以下のような支援事業を企画・実施しています。

- 学生への就職情報の提供、各種就職に関わる相談
- 企業や公務員の就職を希望する学生のための就職ガイダンスの開催
- 学生と企業間における問題の解決支援
- 企業からの情報収集と企業への大学PR
- ジョブフェア(大学主催による企業説明会)の開催
- 1年次から始まるキャリア形成の授業やインターンシップの開設



学生支援棟



就職・キャリア形成推進室

2. 各学部の就職支援体制

教育文化学部

就職情報室を設置し、学生が活用できるよう、就職に関するデータを収集整理しています。キャリア形成に関する授業を開講し、試験対策、エントリーシートや志望動機の書き方、面接を受ける際の注意点等について個別に学生の就職活動の支援を実施しています。

工学資源学部

各学科に就職担当教員を置き、学生の就職指導に当たるとともに、就職資料室を設置して就職情報を提供しています。また、学部に就職活動アドバイザー室を設置し、エントリーシートの書き方、面接の受け方など学生が就職活動全般にわたって相談できる体制を採っています。

医学部

医学科

医師免許取得後2年間は、プライマリ・ケアの基本的な診療能力の習得を目指して、各科のスーパーローテーション研修(臨床研修制度)が義務付けられます。研修先はマッチング登録により自由に選択できますが、本学科では附属病院内に卒後臨床研修センターを設置して初期研修並びに専門医研修のきめ細かいサポートを行っています。また、研修に関する説明会も年数回行っており、卒業生や各科専門医からのアドバイスを受け取る機会を設けています。

保健学科

看護学専攻では、4年次のチュートリアル担当教員が学生個々の進路の相談・支援にあたっています。また、就職・進学支援担当教員を3名配置し、就職施設の選択や病院見学会、採用試験情報の提供など、学生の進路決定を支援する体制を採っています。

また、理学療法学専攻、作業療法学専攻では、4年次の担任を中心として就職・進学に関する相談を受ける体制を整えています。

平成22年度 主な課外行事

Main Extracurricular Events (Academic Year of 2010)

第45回今日歩大会 6月5日(土)・6日(日)

男鹿半島の寒風山を午後9時に出発して、大学まで約40キロの道のりを走(踏)破するもので、例年学生・教職員および一般市民500人ほどが参加して行われる本学の名物行事です。



第61回 東北地区大学体育大会

6月～11月

東北地区の国・公・私立の48大学による体育大会で、男女合わせて30種目の競技が行われます。平成20年度からは東北各県で分担して大会を運営することになりました。秋田県では陸上競技の部(8/7.8)が開催されます。



サークルリーダー研修会 9月29日(水)

課外活動団体のリーダーを中心に日々の活動に必要な知識やAED(自動体外式除細動器)の取扱い方法を修得させるとともに、参加者相互の交流や討論を深めるため、毎年実施しています。



大 学 祭 10月23日(土)・24日(日)

各学部間の交流、また学生と教職員や一般市民との交流を深めることを目的として毎年実施し、学内外を問わず親しまれている行事です。



全学駅伝競走大会 11月6日(土)

学生同士や、学生と教職員との交流を深め、スポーツマン精神を養うことを目的に、例年男女合わせて30チームほどが健脚を競っています。応援を含めて全学が熱狂する行事です。





資料編

- 沿革
- 歴代学長
- 運営組織
- 教育研究組織
- 事務組織
- 役職員
- 学生の定員・現員
- 入学志願者・入学状況
- 出身高校所在地別在学状況
- 卒業者・修了者数
- 学位授与数
- 卒業者等就職状況
- 平成21年度学生表彰受賞者
- 外国人留学生数
- 外国人研究員等
- 国際交流協定校
- 公開講座(平成21年度)
- 国内機関との連携・協力協定
- 役員数
- 教職員数
- 平成22年度予算
- 外部資金受入状況
- 平成22年度科学研究費補助金採択状況
- 土地・建物
- 刊行物一覧
- 各所在地・連絡先一覧
- 手形地区施設配置図
- 本道地区施設配置図
- 保戸野地区施設配置図
- アクセス

沿革

Historical Sketch



明治6年(1873)9月
秋田伝習学校

明治7年(1874)5月
秋田太平学校

明治11年(1878)4月
秋田県師範学校

明治11年(1878)12月
秋田師範学校

明治13年(1880)5月
秋田女子師範学校

明治19年(1886)8月
秋田県尋常師範学校

明治31年(1898)4月
秋田県師範学校

明治42年(1909)4月
秋田県女子師範学校

昭和18年(1943)4月
秋田師範学校(官立)

明治43年(1910)3月
秋田鉱山専門学校(官立)

昭和19年(1944)4月
秋田青年師範学校(官立)

昭和10年(1935)4月
秋田県立青年学校
教員養成所

大正13年(1924)3月
秋田県立実業補習学校
教員養成所

昭和				平成			
20年代	40年代	50年代	60年代	元年	2年	3年	4年
昭和24年(1949)5月 秋田大学設置							
大学院 昭和40年(1965)4月 鉱山学研究科(修士課程)				昭和51年(1976)4月 医学研究科			
昭和24年(1949)5月 学芸学部 小学校教員養成課程 中学校教員養成課程				昭和42年(1967)6月 改称・教育学部			
昭和26年(1951)4月 附属幼稚園 附属小学校 附属中学校				昭和43年(1968)4月 養護学校教員養成課程			
				昭和48年(1973)4月 幼稚園教員養成課程			
				昭和47年(1972)4月 附属養護学校			
				昭和52年(1977)4月 附属教育工学センター			
				昭和45年(1970)4月 医学部 医学科			
				昭和46年(1971)4月 附属病院			
				昭和47年(1972)4月 附属看護学校			
				昭和56年(1981)4月 附属動物実験施設			
				昭和57年(1982)4月 附属実験実習機器センター			
昭和24年(1949)5月 鉱山学部 鉱山学科				昭和35年(1960)4月 採鉱学科 鉱山地質学科			
昭和30年(1955)4月 冶金燃料学科 冶金学科 燃料学科				昭和42年(1967)4月 金属材料学科			
昭和34年(1959)4月 鉱山電気学科 鉱山機械学科 鉱山電気学科				昭和39年(1964)4月 機械工学科 電気工学科			
				昭和48年(1973)4月 電子工学科			
				昭和41年(1966)4月 鉱山土木学科			
				昭和45年(1970)4月 土木工学科			
				昭和52年(1977)4月 生産機械工学科			
昭和40年(1965)4月 附属鉱業博物館							
昭和25年(1950)4月 附属地下資源開発研究所				昭和42年(1967)4月 改称・附属地下資源研究施設			
				昭和61年(1986)4月 改組・附属資源地学研究施設			
昭和24年(1949) 通信教育講座				平成元年(1989)4月 教育学研究科(修士課程)			
				平成2年(1990)4月 改組 資源・素材工学科 物質工学科 情報工学科			
				平成3年(1991)4月 改組 機械工学科 電気電子工学科 土木環境工学科			
				平成4年(1992)4月 改組			

医療技術短期大学部

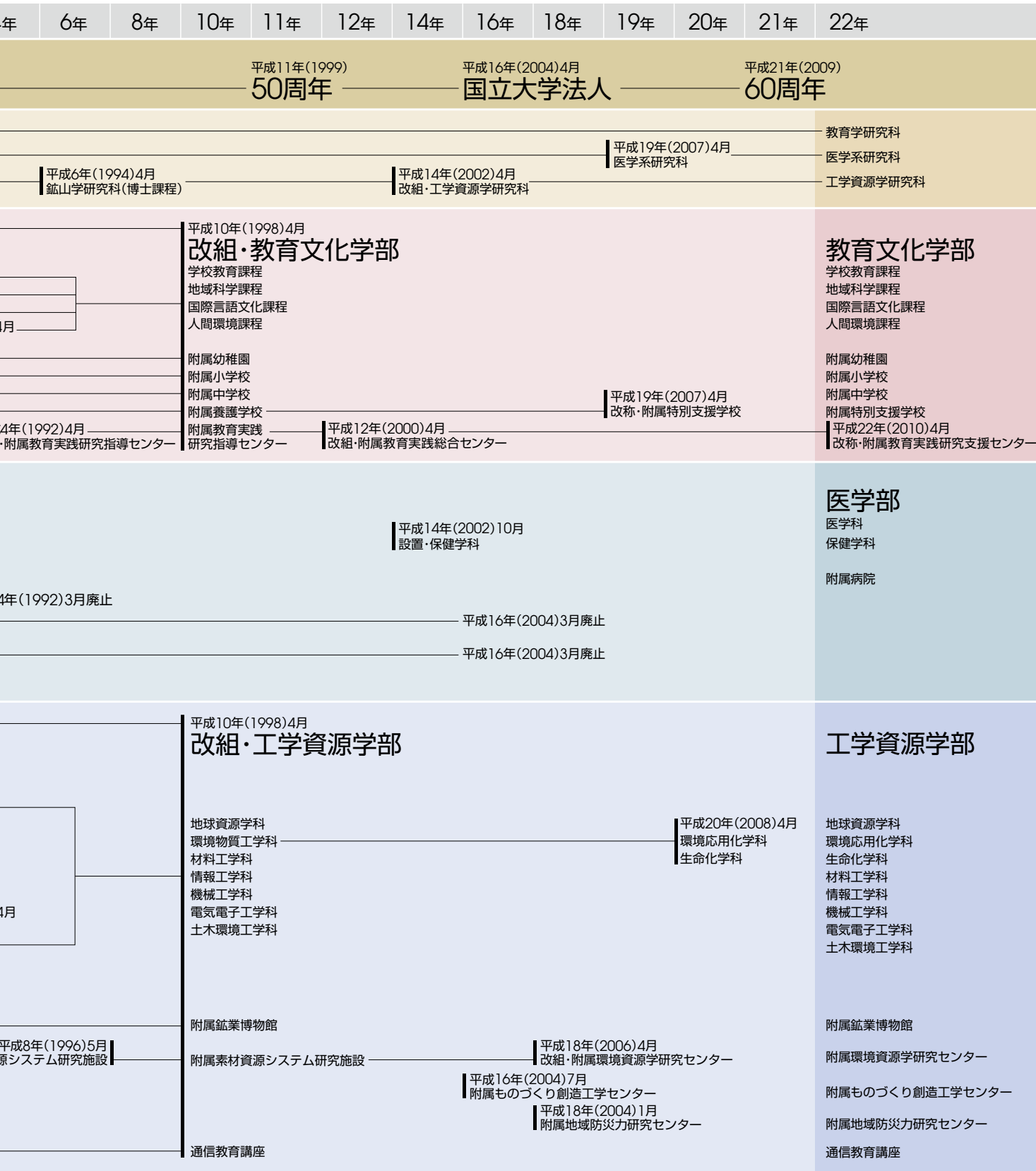
- 〈平成元年(1989)4月～平成19年(2007)3月〉
- 理学療法学科・作業療法学科〈平成2年(1990)4月分離増設〉
 - 【看護学科〈平成元年(1989)10月〉】

専攻科

- 鉱山学専攻科〈昭和29年(1954)4月～昭和40年(1965)3月〉
- 教育専攻科〈昭和40年(1965)4月～平成元年(1989)3月〉
- 特殊教育特別専攻科〈昭和55年(1980)4月～平成20年(2008)3月〉

学内共同教育研究

- 産学連携推進機構〈平成19年(2007)4月設置〉
- 【知的財産本部〈平成16年(2004)4月設置〉】
- 総合情報処理センター〈平成15年(2003)4月設置〉
- ベンチャー・ビジネス・ラボラトリ
- 【サテライト・ベンチャー・ビジネスセンター〈平成17年(2005)4月設置〉】
- バイオサイエンス教育・研究センター
- 環境安全センター〈平成16年(2004)4月設置〉
- ベンチャーインキュベーションセンター



施設

7)11月>
1月)+地域共同研究センター<平成5年(1993)4月>】
2003)4月>【情報処理センター<昭和64年(1989)1月>】
ー<平成15年(2003)4月>
ー<平成12年(2000)4月>】
ー<平成16年(2004)4月> ●放射性同位元素センター<昭和47年(1974)6月>
(4)4月> ●国際資源学教育研究センター<平成21年(2009)10月>
ンター<平成22年(2010)4月>

センター

●総合情報処理センター<平成16年(2004)4月>
●教育推進総合センター<平成16年(2004)4月>
●教員免許状更新講習推進センター<平成21(2009)4月>
●学生支援総合センター<平成16年(2004)4月>
●国際交流センター<平成20年(2008)2月>
【国際交流推進機構<平成16年(2004)4月>】
※社会貢献推進機構(H16.4～H21.3)

●附属図書館
<昭和24年(1949)5月>
●保健管理センター
<昭和49年(1974)4月>

歴代学長



佐野 秀之助
(昭25.5.6～昭30.12.24)



渡邊 萬次郎
(昭31.3.1～昭41.2.28)



伊藤 泰一
(昭41.3.1～昭44.6.9)



渡邊 武男
(昭46.2.23～昭51.2.22)



九嶋 勝司
(昭51.2.23～昭56.2.22)



梅津 良之
(昭56.2.23～昭61.2.22)



渡部 美種
(昭61.2.23～平3.2.22)



新野 直吉
(平3.2.23～平8.2.22)



徳田 弘
(平8.2.23～平13.2.22)



三浦 亮
(平13.2.23～平20.3.31)



吉村 昇
(平20.4.1～)

〈事務取扱〉

劔木 亨弘
(昭24.5.31～昭24.7.30)

池田 謙三
(昭24.7.31～昭25.5.5)

五十嵐 勇
(昭30.12.25～昭31.2.29)

藤島 主殿
(昭44.6.10～昭46.2.22)

経営協議会

(12人)
Management Committee

経営に関する重要事項を審議

学長

理事(総務担当)

理事(財務・施設・環境担当)

理事(経営支援担当)〈非常勤〉

医学部附属病院長

学長指名委員
(学長特別補佐〈評価担当〉)

学外委員(6人)

役員会

(6人)
Board of Directors

経営、教学の両面にわたり、
特定の重要事項について、
学長の意思決定に先立ち議決を行う。

学長

理事(総務担当)

理事(教育・社会貢献担当)

理事(学術研究・産学連携担当)

理事(財務・施設・環境担当)

理事(経営支援担当)〈非常勤〉

監事

(2人)
〈うち、非常勤1人〉
Auditors

教育研究評議会

(19人)
Education and
Research Council
教育研究に関する重要事項を審議

学長

理事(総務担当)

理事(教育・社会貢献担当)

理事(学術研究・産学連携担当)

学長特別補佐(評価担当)

教育文化学部長

医学系研究科長

工学資源学研究科長

附属図書館長

医学部附属病院長

産学連携推進機構長

総合情報処理センター長

教育推進主管

各学部長等が推薦する
当該学部等の教授(各2人)

学長選考会議

(12人)
President Nomination Committee

経営協議会委員のうち国立大学法人秋田大学の役員又は職員以外の者(5人)

教育文化学部長／医学系研究科長／工学資源学研究科長／附属図書館長／学長特別補佐(評価担当)

理事(総務担当)／理事(財務・施設・環境担当)

部局長等連絡調整会議

(10人)

学 長

理事(総務担当)／理事(教育・社会貢献担当)／理事(学術研究・産学連携担当)／理事(財務・施設・環境担当)

教育文化学部長／医学系研究科長／工学資源学研究科長／附属図書館長／医学部附属病院長

教育研究組織

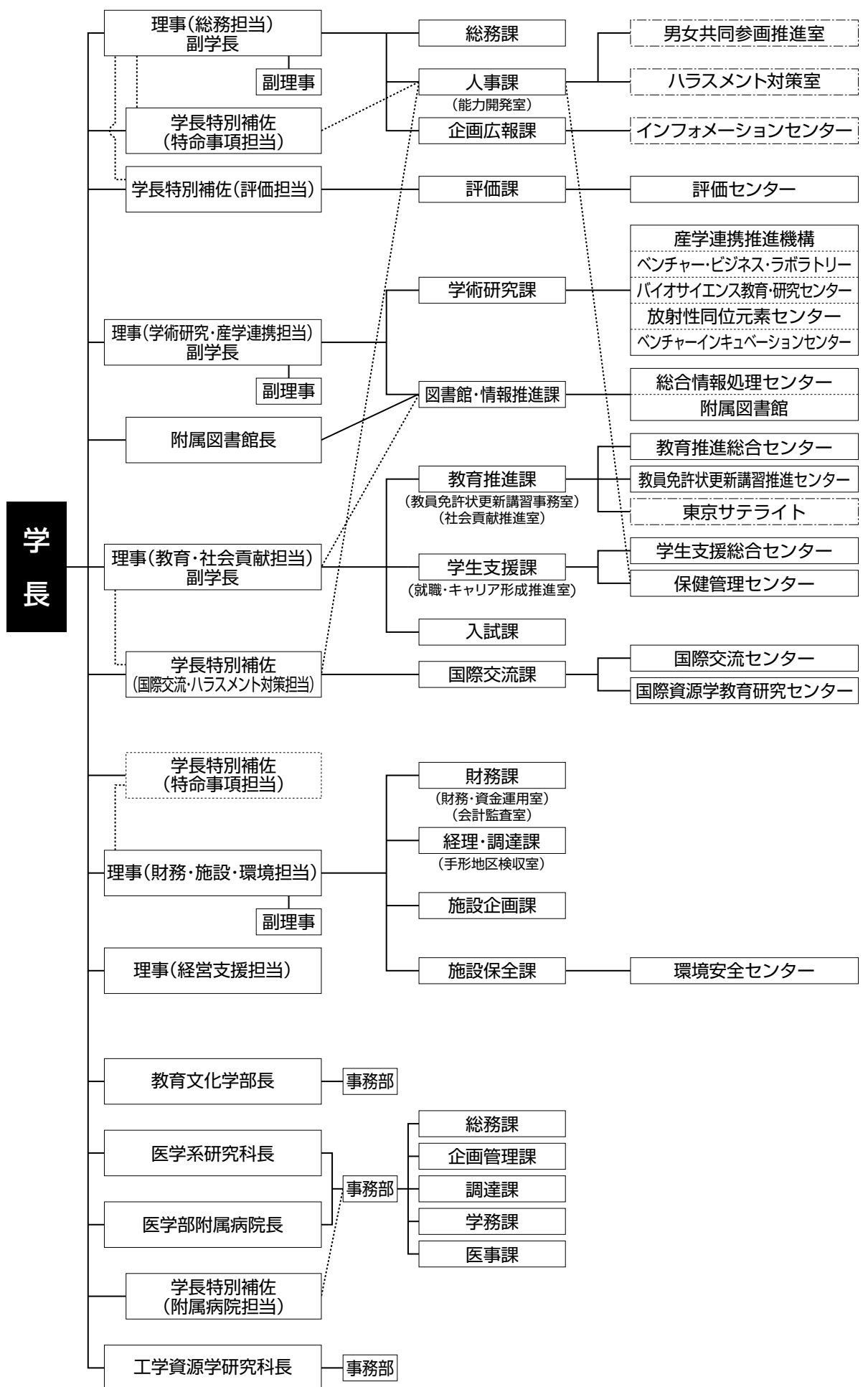
Academic Organization

秋田大学
Akita University



事務組織

Administrative Organization



役職員

Administrative Staff

役 員		
学長	吉 村 昇	
理事(総務担当)・副学長	對 馬 達 雄	
理事(教育・社会貢献担当)・副学長	吉 岡 尚 文	
理事(学術研究・産学連携担当)・副学長	井 上 浩	
理事(財務・施設・環境担当)	後 藤 寛	
理事(経営支援担当)(非常勤)	新 開 卓	
監事	渡 部 文 靖	
監事(非常勤)	小 林 俊 雄	

学長特別補佐		
評価担当	熊 田 亮 介	
国際交流・ハラスメント対策担当	榎 本 克 彦	
附属病院担当	茆 原 順 一	
特命事項担当	寺 井 謙 次	

学長補佐		
企画分析担当	島 澤 諭	
男女共同参画担当	渡 部 育 子	
知的財産担当	杉 山 俊 博	
国際交流担当	宮 本 律 子	
ハラスメント担当	佐 藤 博	
社会貢献担当	銭 谷 秋 生	
学生支援担当	麻 生 節 夫	

経営協議会		
学長	吉 村 昇	
理事(総務担当)・副学長	對 馬 達 雄	
理事(財務・施設・環境担当)	後 藤 寛	
理事(経営支援担当)(非常勤)	新 開 卓	
医学部附属病院長	茆 原 順 一	
学長特別補佐(評価担当)	熊 田 亮 介	
秋田商工会議所会頭	渡 邊 靖 彦	
秋田魁新報社代表取締役社長	小 笠 原 直 樹	
秋田県医師会会長	小 山 田 雅	
秋田県教育委員会教育長	根 岸 均	
JSTイノベーションサテライト岩手館長	平 山 健 一	
東京国立博物館館長	銭 谷 眞 美	

教育研究評議会		
学長	吉 村 昇	
理事(総務担当)・副学長	對 馬 達 雄	
理事(教育・社会貢献担当)・副学長	吉 岡 尚 文	
理事(学術研究・産学連携担当)・副学長	井 上 浩	
学長特別補佐(評価担当)	熊 田 亮 介	
教育文化学部長	池 村 好 道	
医学系研究科長	本 橋 豊	
工学資源学研究科長	西 田 眞	
附属図書館長	大 好 直	
医学部附属病院長	茆 原 順 一	
産学連携推進機構長	濱 田 文 男	
総合情報処理センター長	中 村 雅 英	
教育推進主管	小 川 信 明	
教育文化学部教授	笠 原 幸 生	
教育文化学部教授	四 反 田 素 幸	
医学系研究科教授	河 谷 正 仁	
医学系研究科教授	浅 沼 義 博	
工学資源学研究科教授	砂 子 田 勝 昭	
工学資源学研究科教授	泰 松 齊	

本部等		
副理事(総務担当)	松 田 栄 二	
副理事(学術研究・産学連携担当)	田 口 公 夫	
副理事(財務・施設・環境担当)	松 原 省 三	
総務課長	小 山 田 享 史	
人事課長	千 葉 進	
企画広報課長	高 橋 康 弘	
課長・(兼)企画広報課調査役	佐 藤 博 巳	
評価課長	碓 子 洋 行	
学術研究課長	熊 谷 寛	
図書館・情報推進課長	川 村 眞	
教育推進課長	武 石 孝 憲	
学生支援課長	工 藤 工	
入試課長	土 門 貞 三	
国際交流課長	笹 村 和 雄	
財務課長	鈴 木 康 彦	
経理・調達課長	藤 澤 均	
施設企画課長	高 橋 勝 治	
施設保全課長	内 藤 哲 男	

センター・機構等		
産学連携推進機構長	濱 田 文 男	
総合情報処理センター長	中 村 雅 英	
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長	齋 藤 準	
バイオサイエンス教育・研究センター長	茆 原 順 一	
放射性同位元素センター長	田 口 正 美	
ベンチャーインキュベーションセンター長	井 上 浩	
環境安全センター長	村 田 勝 敬	
評価センター長	熊 田 亮 介	
教育推進総合センター長	吉 岡 尚 文	
教員免許状更新講習推進センター長	佐 藤 修 司	
学生支援総合センター長	吉 岡 尚 文	
国際交流センター長	榎 本 克 彦	
国際資源学教育研究センター長	水 田 敏 夫	
保健管理センター所長	苗 村 育 郎	
教育推進主管	小 川 信 明	

附属図書館		
館長	大 好 直	
医学部分館長	阿 部 寛	

教育文化学部		
学部長	池 村 好 道	
事務長	小 松 一 幸	
課長(特命事項担当)	佐 々 木 竹 志	
附属幼稚園長	長 沼 誠 子	
附属小学校長	阿 部 昇	
附属中学校長	長 澤 光 雄	
附属特別支援学校長	大 城 英 名	
附属教育実践研究支援センター長	石 黒 純 一	

医学系研究科		
研究科長	本 橋 豊	
医学部附属病院長	茆 原 順 一	
事務部長	波 塚 章 生	
総務課長	川 村 金 蔵	
企画管理課長	綿 矢 憲 之	
調達課長	石 川 洋 一	
学務課長	佐 藤 幸 男	
医事課長	玉 尾 喜 寿 男	

工学資源学研究科		
研究科長	西 田 眞	
事務長	岡 見 善 孝	
附属鉱業博物館長	西 谷 忠 師	
附属環境資源学研究センター長	石 山 大 三	
附属ものづくり創造工学センター長	神 谷 修	
附属地域防災力研究センター長	松 富 英 夫	

学生の定員・現員

〈学 部〉

平成22年5月1日現在

学部	学科・課程	入学定員	収容定員	現 員						計
				1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
教育文化学部	学校教育課程	100	400	103	109	112	118			442
	地域科学課程	65	260	67	66	77	70			280
	国際言語文化課程	65	260	67	66	77	77			287
	人間環境課程	60	240	62	65	67	61			255
	小 計	290	1,160	299	306	333	326			1,264
医学部	医学科	(5)117	637	126	104	118	95	104	98	645
	保健学科	(14)106	452	113	107	122	125	104	98	467
	小 計	(19)223	1,089	239	211	240	220			1,112
工学資源学部	地球資源学科	60	240	68	63	60	58			249
	環境物質工学科	※1	75		1	24	61			86
	環境応用化学科	55	165	64	61	58	—			183
	生命化学科	32	96	35	34	31	—			100
	材料工学科	60	240	71	71	63	57			262
	情報工学科	50	200	57	63	59	56			235
	機械工学科	77	311	98	90	98	96			382
	電気電子工学科	75	305	85	93	102	91			371
	土木環境工学科	51	208	57	55	56	61			229
	各学科共通	(22)	44							
	小 計	(22)460	1,884	535	531	551	480			2,097
合 計		(41)966	4,133	1,073	1,048	1,124	1,026	104	98	4,473

※()内の数は3年次編入学定員を表し、外数である。

〈大学院〉

平成22年5月1日現在

研究科	専攻	入学定員	収容定員	現員				計	
				修士課程					
				1年次	2年次				
教育学研究科	学校教育専攻	13	26	12	15			27	
	教科教育専攻	31	62	15	18			33	
	計	44	88	27	33			60	
研究科	専攻	入学定員	収容定員	現員				計	
				修士課程					
				1年次	2年次				
医学系研究科	医科学専攻	5	10	4	5			9	
	保健学専攻	※3			7			7	
	小計	5	10	4	12			16	
	専攻	入学定員	収容定員	博士前期課程				計	
	保健学専攻	12	24	1年次	2年次			12	14
	専攻	入学定員	収容定員	博士後期課程					計
	保健学専攻	3	6	1年次	2年次	3年次			7
	専攻	入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	計	
	医学専攻	30	120	27	32	32	21	112	
	医学研究科	専攻	入学定員	収容定員	博士課程				計
[注] ※3：平成21年度から 学生募集停止	社会医学系専攻	※2		1年次	2年次	3年次	4年次	2	2
	内科系専攻							16	16
	外科系専攻							7	7
	小計							25	25
	医学第三系専攻	※1					1	1	
	小計						1	1	
	計	50	160						187
研究科	専攻	入学定員	収容定員	現員				計	
				博士前期課程					
				1年次	2年次				
工学資源学研究科	地球資源学専攻	18	36	17	17			34	
	環境物質工学専攻	24	48	43	34			77	
	材料工学専攻	18	36	27	25			52	
	情報工学専攻	16	32	18	10			28	
	機械工学専攻	24	48	42	27			69	
	電気電子工学専攻	26	52	30	28			58	
	土木環境工学専攻	12	24	13	8			21	
	小計	138	276	190	149			339	
	専攻	入学定員	収容定員	博士後期課程					
	資源学専攻	4	12	1年次	2年次	3年次	17		
	機能物質工学専攻	4	12	3	5	7	15		
	生産・建設工学専攻	4	12	3	1	3	7		
	電気電子情報システム工学専攻	4	12	2	2	7	11		
	小計	16	48	13	15	22	50		
	計	154	324					389	
合計		248	572					636	

入学志願者・入学状況

〈学部〉

平成22年度

区 分	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
教育文化学部	290	601	971	1,572	105	190	295	5.42
医学部	223	493	622	1,115	97	129	226	5.00
工学資源学部	460	1,596	295	1,891	397	79	476	4.11

※外国人留学生及び編入生は除く。

〈大学院〉

平成22年度

区 分		入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
			男	女	計	男	女	計	
教育学研究科(修士課程)		44	18	29	47	13	14	27	1.07
医学系研究科	(修士課程) 医科学専攻	5	5	—	5	4	—	4	1.00
	(博士前期課程) 保健学専攻	12	7	10	17	6	6	12	1.42
	(博士後期課程) 保健学専攻	3	1	5	6	1	2	3	2.00
	(博士課程) 医学専攻	30	22	8	30	20	7	27	1.00
工学資源学研究科(博士前期課程)		138	207	17	224	169	16	185	1.62
工学資源学研究科(博士後期課程)		16	9	2	11	9	1	10	0.69

※国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を除く。

※工学資源学研究科(博士前期課程)には、再チャレンジ支援特別選抜も含む。

出身高校所在地別在学状況

〈学生総数(学部学生)〉 平成22年5月1日現在

		人数	%
北海道		116	2.7%
東北 3,005 (68.7%)	青森	211	4.8%
	岩手	405	9.3%
	秋田	1,896	43.3%
	宮城	248	5.7%
	山形	145	3.3%
	福島	100	2.3%
関東		561	12.8%
中部		536	12.2%
近畿		56	1.3%
中国		51	1.2%
四国		24	0.5%
九州		27	0.6%
学生総数		4,376	

※学生総数は、国内の高校出身者の合計である。

〈教育文化学部〉 平成22年5月1日現在

		人数	%
北海道		14	1.1%
東北 1,075 (85.9%)	青森	52	4.2%
	岩手	102	8.1%
	秋田	760	60.7%
	宮城	63	5.0%
	山形	59	4.7%
	福島	39	3.1%
関東		68	5.4%
中部		75	6.0%
近畿		8	0.6%
中国		9	0.7%
四国		1	0.1%
九州		2	0.2%
計		1,252	

〈医学部〉

平成22年5月1日現在

		人数	%
北海道		53	4.8%
東北 680 (61.2%)	青森	31	2.8%
	岩手	78	7.0%
	秋田	463	41.6%
	宮城	76	6.8%
	山形	19	1.7%
	福島	13	1.2%
関東		223	20.1%
中部		105	9.4%
近畿		22	2.0%
中国		13	1.2%
四国		7	0.6%
九州		9	0.8%
計		1,112	

〈工学資源学部〉

平成22年5月1日現在

		人数	%
北海道		49	2.4%
東北 1,250 (62.1%)	青森	128	6.4%
	岩手	225	11.2%
	秋田	673	33.4%
	宮城	109	5.4%
	山形	67	3.3%
	福島	48	2.4%
関東		270	13.4%
中部		356	17.7%
近畿		26	1.3%
中国		29	1.4%
四国		16	0.8%
九州		16	0.8%
計		2,012	

卒業者・修了者数

〈学部・大学院・専攻科〉

学 部			大学院			専攻科		
区 分	21年度	累計	区 分	21年度	累計	区 分	21年度	累計
教育文化学部	310	2,662	教育学研究科	30	684	教育専攻科	—	78
教育学部	—	14,519				特殊教育特別専攻科	—	212
医学部	213	3,771	医学系研究科 (修士課程)	17	38	—		
			医学系研究科 (博士課程)	1	1			
			医学研究科	20	768			
工学資源学部	481	4,115	工学資源学研究科 (博士前期課程)	121	946	鉱山学専攻科	—	58
			工学資源学研究科 (博士後期課程)	8	54			
鉱山学部	—	14,522	鉱山学研究科 (修士課程)	—	1,270			
			鉱山学研究科 (博士前期課程)	—	1,012			
			鉱山学研究科 (博士後期課程)	—	123			
計	1,004	39,589	計	197	4,896	計	—	348

【注】※鉱山学専攻科…昭和40年3月廃止 ※教育専攻科…平成元年3月廃止 ※鉱山学研究科(修士課程)…平成9年3月廃止
 ※教育学部…平成10年4月教育文化学部へ改組・改称 ※鉱山学部…平成10年4月工学資源学部へ改組・改称
 ※鉱山学研究科…平成14年4月工学資源学研究科へ改組・改称 ※特殊教育特別専攻科…平成20年3月廃止
 ※医学研究科…平成19年4月医学系研究科へ改組・改称

〈医療技術短期大学部〉

区 分	看護学科	理学療法学科	作業療法学科
累 計	1,015	246	254

【注】※医療技術短期大学部…平成19年3月廃止

学位授与数

平成22年5月1日現在

区 分		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	累計
教育学研究科	修士(教育学)	32	34	28	31	30	684
医学系研究科	修士(医科学)	—	—	—	5	3	8
	修士(看護学)	—	—	—	8	7	15
	修士(リハビリテーション科学)	—	—	—	8	7	15
	博士(医学)(課程)	—	—	—	—	1	1
	博士(医学)(論文)	—	—	4	3	5	12
	小 計	—	—	4	24	23	51
医学研究科	博士(医学)(課程)	30	29	28	33	20	785
	博士(医学)(論文)	11	7	0	0	0	574
	小 計	41	36	32	33	20	1,359
工学資源学研究科	修士(工学)	136	123	141	154	120	935
	修士(資源学)	2	2	2	1	1	11
	博士(工学)(課程)	7	5	9	15	8	53
	博士(資源学)(課程)	1	0	0	0	0	1
	博士(工学)(論文)	2	3	0	0	2	7
	博士(資源学)(論文)	0	1	0	0	0	1
	小 計	148	134	152	170	131	1,008
鉱山学研究科	修士(工学)	0	0	0	0	0	2,252
	修士(資源学)	0	0	0	0	0	30
	博士(工学)(課程)	0	0	0	0	0	117
	博士(資源学)(課程)	0	0	0	0	0	6
	博士(工学)(論文)	0	0	0	0	0	31
	小 計	0	0	0	0	0	2,436
合 計		221	204	216	258	204	5,538

卒業者等就職状況

区 分		卒業 者数	進学 者数	就職者数		産 業 別 就 職 者 数																												
				県 内	県 外	農 林 水 産	鉱 業	建 設 業	製 造 業	電 気・ガ ス等	情 報通 信	運 輸・郵 便業	卸・小 売業	金 融・保 険業	不 動産 業	飲 食・宿 泊	医 療・福 祉	学 校 教 育										その他 教育学 習支援 業	複 合サー ビス業	サー ビス業	公 務 員			その他
																		教 員							教 員 以 外	国 家	地 方				公 務 員 の 計			
																		幼 稚園	小 学 校	中 学 校	高 等学 校	高 専・大 学等	特 別支 援学 校	専 修学 校								教 員 の 計		
学 部	教育文化学部	310	21	247	—	—	4	10	—	23	7	24	29	2	6	8	2	25	18	6	—	9	1	61	3	9	5	19	4	33	37	42		
				122	125																													
	医学部	213	2	207	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	207	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4		
				98	109																													
学 部	工学資源学部	481	191	247	—	3	30	96	5	36	11	4	7	1	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	4	19	4	22	26	43		
				56	191																													
	小計	1004	214	701	—	3	34	106	5	59	18	28	36	3	6	217	2	25	18	6	—	9	1	61	6	9	9	38	8	55	63	89		
				276	425																													
大 学 院	教育学研究科	30	—	28	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	4	—	6	3	4	3	3	—	19	—	1	—	—	—	3	3	2		
				19	9																													
	医学系研究科	18	—	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	—	—	—	—	3	—	1	4	—	—	—	1	—	—	—	1		
				15	2																													
	医学研究科	20	—	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
				19	1																													
大 学 院	工学資源学研究科	129	3	120	—	4	6	55	12	14	3	2	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	2	6	—	—	12	—	4	4	6		
				20	100																													
	小計	197	3	185	—	4	6	55	12	14	4	2	—	—	—	36	—	6	3	4	8	3	1	25	6	1	—	13	—	7	7	9		
				73	112																													
合 計		1201	217	886	—	7	40	161	17	73	22	30	36	3	6	253	2	31	21	10	8	12	2	86	12	10	9	51	8	62	70	98		
				349	537																													

平成21年度学生表彰受賞者

〈学術研究活動〉

賞	氏 名	所 属	業 績 内 容
優秀賞	ふじおか ゆうき 藤岡 優樹	医学部 医学科 6年	第10回国際樹状細胞シンポジウムにおいて研究発表を行い、Poster Awardを受賞した。(同業績により、日本学生支援機構の平成21年度優秀学生顕彰事業の奨励賞を受賞)
優秀賞	いのまた みか 猪又 美佳	医学系研究科 内科学第三講座 3年	悪性リンパ腫の発症におけるmicro RNAの役割を世界で初めて明らかにし、学会一流雑誌「Blood」で高く評価された。
優秀賞	りゅう ゆうすけ 竜 優介	工学資源学部 機械工学科 3年	文部科学省、特許庁、日本弁理士会及び独立行政法人工業所有権情報研修館が主催する平成21年度パテントコンテストにおいて入選し、国の経費で特許を早期に取得できる権利を得た。
奨励賞	こう とう 後藤 徹	医学部 医学科 5年	第109回日本外科学会総会並びに44th Congress of the European Society for Surgical Research(フランス・ニーム開催)にて口演発表・討論を行い、座長から高評価を得た。
奨励賞	やまなか やすお 山中 康生	医学研究科 内科学第三講座 4年	NK細胞リンパ腫の発症におけるmicro RNAの関与を世界で初めて明らかにし、細胞内シグナルの解析を詳細に行い、学会一流雑誌「Blood」で高く評価された。
奨励賞	たけうち あきと 竹内 草人	工学資源学研究科 博士前期課程 2年 地球資源学専攻	資源地質学会第59回年会講演会で2009年度の最優秀学生講演賞を受賞した。
奨励賞	なかむら たかし 中村 貴司	工学資源学研究科 博士後期課程 3年 機能物質工学専攻	第30回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム(USE2009)で講演した“超音波照射を用いた微生物汚染土壌の浄化処理”がUSE2009奨励賞に決定された。
奨励賞	いとう ももよ 伊藤 桃代	工学資源学研究科 博士後期課程 3年 電気電子情報 システム工学専攻	平成21年10月に秋田市で開催され、the 6th International Conference on Materials Engineering for Resources (ICMR2009AKITA)において、“Extraction Method of Brain Regions with Balloon models for Imaging Diagnosis Support of Alzheimer Type Dementia”について発表を行い、平成21年10月23日に素材物性学会議(ICMR2009AKITA)優秀論文賞を受賞した。
奨励賞	みやなが かずあき 宮永 和明	工学資源学研究科 博士後期課程 3年 電気電子情報 システム工学専攻	平成20年度に電気情報通信学会の「学術奨励賞」を受賞した。

※副賞は、優秀賞5万円、奨励賞2万円とする。

〈課外活動〉

賞	氏名・団体名	所 属	種目／成績	大会名
優秀賞 (団体)	医学部女子陸上競技部		女子総合／第3位	第68回全日本医歯薬獣医大学対抗 陸上競技選手権大会
優秀賞 (個人)	菅原 純子	医学部 保健学科 4年	女子 走幅跳／第1位	第68回全日本医歯薬獣医大学対抗 陸上競技選手権大会
〃	鮎 川 郁	医学部 医学科 1年	女子 800m／第3位	第68回全日本医歯薬獣医大学対抗 陸上競技選手権大会
〃	安藤 いづみ	医学部 医学科 1年	女子 4×100mリレー／第2位	第68回全日本医歯薬獣医大学対抗 陸上競技選手権大会
	菅原 純子	医学部 保健学科 4年		
	菅原 夏希	医学部 保健学科 3年		
〃	近江谷 一樹	工学資源学部 土木環境工学科 2年	男子 大回転／第1位	第29回全日本国公立大学スキー選手権大会
			男子 回転／第1位	
奨励賞 (団体)	柔 道 部		第3位	第51回全国国立大学柔道優勝大会
〃	男子ハンドボール部		優 勝	第46回東北総合ハンドボール選手権大会
〃	医学部剣道部		女子団体戦／優勝	第52回東日本医科学生総合体育大会 剣道競技
奨励賞 (個人)	越川 辰一	教育文化学部 学校教育課程 3年	男子100kg級／優勝	平成21年度東北学生柔道体重別選手権大会
〃	阿部 大紀	教育文化学部 学校教育課程 1年	男子66kg級／優勝	平成21年度東北学生柔道体重別選手権大会
〃	安保 有由里	教育文化学部 学校教育課程 3年	女子 砲丸投／第1位	平成21年度東北地区大学体育大会 陸上競技の部
			女子 砲丸投／第1位	第38回東北学生陸上競技選手権大会
〃	大友 樹里	教育文化学部 学校教育課程 3年	女子 ハンドボール／得点王	第44回東北学生ハンドボール 春季リーグ戦
〃	松浦 梓	医学部 医学科 4年	クロスカントリー 女子5km／優勝	第51回東日本医科学生総合体育大会 スキー競技
〃	中村 哲也	工学資源学研究科 機械工学専攻 2年	男子 走幅跳／第1位	第38回東北学生陸上競技選手権大会
〃	佐々木 祐太	工学資源学部 環境応用化学科 2年	新人戦／第1位	第15回東北学生スキー技術選手権大会

※副賞は、優秀賞5万円、奨励賞2万円とする。

外国人留学生数

平成22年5月1日現在

	学 部						小 計		大 学 院						小 計		短期 留学生		合 計
	教育文化 学部		医学部		工学資源 学部				教育学 研究科		医学系 研究科		工学資源 学研究科						
	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	
中 国	—	2	—	—	—	28	—	30	—	1	2	2	—	12	2	15	—	6	53
マレーシア	—	—	—	—	—	29	—	29	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	30
韓 国	—	5	—	1	—	—	—	6	—	—	—	—	—	—	—	—	1	14	21
ベトナム	—	—	—	—	—	21	—	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	21
モンゴル	—	1	—	—	—	2	—	3	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	4
インドネシア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	3	1	—	4
タ イ	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1	1	—	1	1	—	—	3
ボツワナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—	—	2
カンボジア	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
ミャンマー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1
ブラジル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—	1
パプアニューギニア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1
ガーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1
南アフリカ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1
フィリピン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—	1
パキスタン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	1
バングラデシュ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	1
ザンビア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	1
ベラルーシ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
アメリカ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
台 湾	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
計	—	8	—	1	1	81	1	90	—	1	4	3	5	22	9	26	3	22	151

※「国費」とは日本政府(文部科学省)奨学生を示す。
 ※「短期留学生」とは研究生、科目等履修生など正規生を除くすべての留学生を示す。

外国人研究員等

〈外国人研究員数〉 平成21年度受入実績

部局名	国・地域	人数
工学資源学研究科	中 国	2
ベンチャー・ビジネス・ ラボラトリー	中 国	2

〈非常勤研究員数〉 平成21年度受入実績

部局名	国・地域	人数
工学資源学研究科	ベネズエラ	1
	中 国	1
ベンチャー・ビジネス・ ラボラトリー	中 国	8
	パプアニューギニア	1

〈外国人客員研究員数〉 平成21年度受入実績

部局名	国・地域	人数
医学系研究科	中 国	1
	ベラルーシ	1
	スロバキア	1



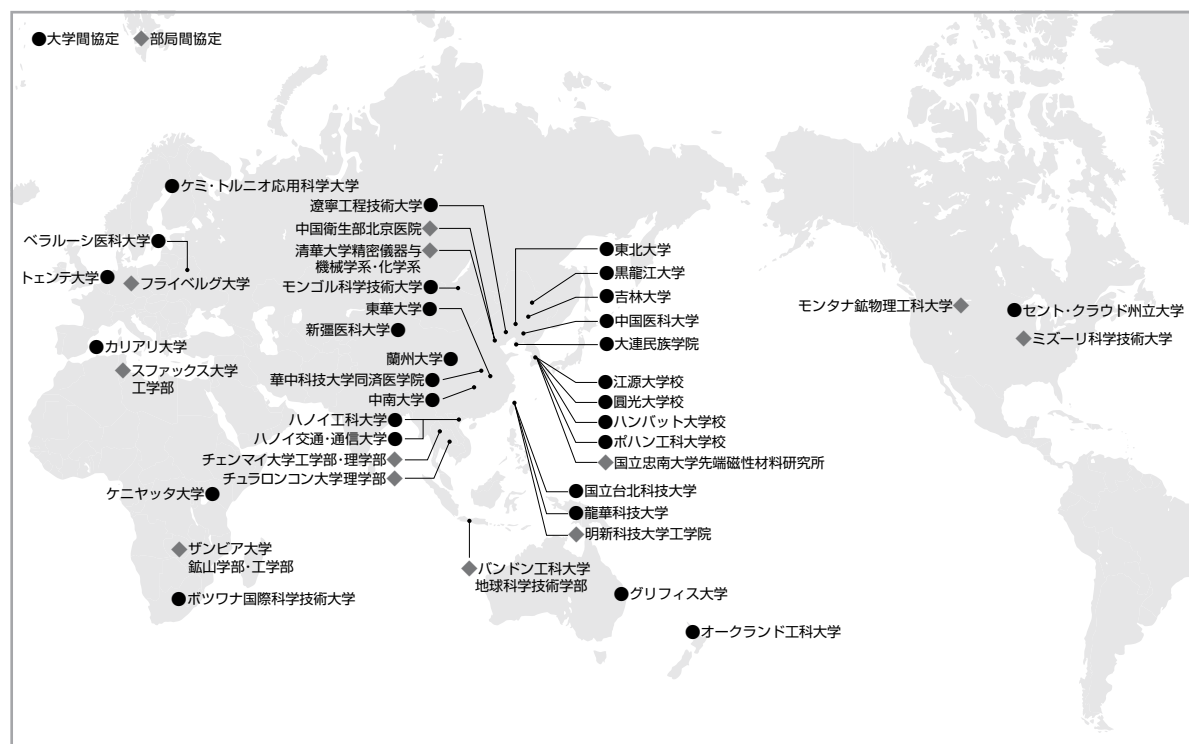
国際交流協定校

〈大学間協定(14カ国地域29大学)〉 平成22年5月1日現在

国・地域名	大学名	締結年月日
中 国	黒龍江大学	昭和63年10月19日
	中国医科大学	平成元年10月 6日
	中南大学	平成16年 8月24日
	遼寧工程技術大学	平成17年 4月20日
	大連民族学院	平成17年 6月27日
	蘭州大学	平成17年 8月 1日
	新疆医科大学	平成18年 2月20日
	吉林大学	平成19年 2月 6日
	東北大学	平成19年 8月 9日
	東華大学	平成21年12月 3日
	華中科技大学同済医学院	平成22年 3月24日
オーストラリア	グリフィス大学	平成 8年10月14日
ベラルーシ	ベラルーシ医科大学	平成16年 7月26日
アメリカ	セント・クラウド州立大学	平成 8年 7月24日
韓 国	ハンバット大学校	平成13年 6月 8日
	圓光大学校	平成19年10月12日
	江源大学校	平成20年 3月24日
	ポハン工科大学校	平成21年10月22日
ニュージーランド	オークランド工科大学	平成16年 3月17日
台 湾	龍華科技大学	平成17年 7月15日
	国立台北科技大学	平成17年 7月18日
オランダ	トエンテ大学	平成19年10月23日
ベトナム	ハノイ工科大学	平成20年12月 2日
	ハノイ交通・通信大学	平成20年12月 3日
モンゴル	モンゴル科学技術大学	平成21年10月22日
フィンランド	ケミ・トルニオ応用科学大学	平成21年10月23日
ボツワナ	ボツワナ国際科学技術大学	平成21年10月23日
イタリア	カリアリ大学	平成21年12月 9日
ケニア	ケニヤッタ大学	平成22年 3月 2日

〈部局間協定(9カ国地域15学部等)〉 平成22年5月1日現在

部局名	国・地域名	大学名	締結年月日
医学系研究科・医学部	中国	中国衛生部 北京医院	平成 7年11月14日
工学資源学研究科 工学資源学部	アメリカ	モンタナ 鉱物理工科大学	昭和57年 6月24日
		ミズーリ 科学技術大学	平成12年12月18日
	中国	清華大学 精密儀器与機械学系	平成19年 3月 1日
		清華大学化学系	平成20年 1月17日
	タイ	チェンマイ大学 工学部	平成11年 7月12日
		チェンマイ大学 理学部	平成11年 7月12日
		チュラロンコン大学 理学部	平成21年 5月22日
	ザンビア	ザンビア大学 鉱山学部	平成15年 1月20日
		ザンビア大学工学部	平成15年 3月12日
	チュニ シア	スファックス大学 工学部	平成15年12月18日
	ドイツ	フライベルグ大学	平成18年 2月22日
	インド ネシア	バンドン工科大学	平成22年 3月 3日
	台湾	明新科技大学工学院	平成22年 4月12日
ベンチャー・ビジネス・ ラボラトリー	韓国	国立忠南大学 先端磁性材料研究所	平成17年11月29日



公開講座

〈平成21年度実施〉

講座名	内 容	開催時期	対象者	参加者数	担当の学部
高校生・社会人のための声楽講座 ー学習方法と歌唱表現ー（前期） （全7回）	声楽に関する基礎的な発声法や表現法について指導した。演習を主体としたレッスン形式で、教材にはイタリア古典歌曲などを使用した。	21年5月10日（日）～ 8月9日（日） （5/10・31、6/14・28、 7/19、8/2・9）	市 民 高校生	15	教育文化 学部
ウィリアム・ホガースの絵画を読む ー18世紀英国の絵画と社会ー （全5回）	18世紀イギリスの画家ウィリアム・ホガースの作品を紹介しながら、当時の多彩な英国絵画と社会との関係を読み解いた。	21年6月4日（木）～ 7月2日（木）	市 民	23	教育文化 学部
近現代の日本音楽 ー近代化と国際化の狭間でー （全6回）	近世後期から明治、大正、昭和期にかけての日本音楽について、尺八や琵琶といった邦楽から、明治以降日本に流入した西洋音楽、歌謡曲等の歴史を解説した。	21年6月6日（土）～ 7月12日（日） （6/6・13・21・27、 7/4・12）	市 民	17	教育文化 学部
健康生活最前線！ ー保健学からの挑戦ー （全8回）	健康な生活を送るため保健学の視点から捉えた生活上の注意点について、呼吸、睡眠、食事、骨粗鬆症予防などのテーマで紹介した。	21年9月26日（土）～ 10月17日（土）	市 民	17	医学系 研究科 保健学 専攻
地球を調べ、資源を考える ー地層の観察から秋田の昔を探るー （全4コマ・1日）	秋田県に豊富な地下資源が存在する理由を学ぶことを目的に、地層群を詳細に観察できる男鹿半島をフィールドに岩石・化石の調査・観察実習を行った。	21年9月26日（土）	市 民 高校生	25	工学資源 学部
総合自殺予防学 インテンシブコース （全5回）	現場で自殺予防に関わっている実務の専門家を対象に、自殺総合対策の現状と今後の展望を理解し、現場での対策推進に役立てることを目的に開講した。	21年10月2日（金）～ 11月13日（金） （10/2・9・16、 11/6・13）	保健師 行政担当者 サポーター	33	医学系 研究科
東アジアの文化と社会Ⅱ （全10回）	中国古代の歌謡・詩経、朝鮮の歴史と文化、墨家や孟子の革命論等について、5人の教員がそれぞれの専門分野について解説した。	21年10月6日（火）～ 12月15日（火）	市 民	18	教育文化 学部
高校生・社会人のための声楽講座 ー学習方法と歌唱表現ー（後期） （全7回）	前期に引き続き、声楽に関する基礎的な発声法や表現法について指導した。日本歌曲・イタリア歌曲・ドイツ歌曲等の歌唱表現を学び、最終回には練習成果を発表した。	21年11月1日（日）～ 22年2月21日（日） （11/1・15・29、12/13、 1/24・31、2/21）	市 民 高校生	17	教育文化 学部
中世ヨーロッパの世界 ーキリスト教会は私たちに 何を残してきたのか？ー （全5回）	中世ヨーロッパについて、キリスト教会の歴史を探りながら、教会建築や結婚観、クリスマスの起源など、絵画の画像や資料を紹介しながら解説した。	21年11月11日（水）～ 12月16日（水）	市 民	31	教育文化 学部

今年度開催予定の公開講座は

〈ホームページ〉http://www.pcix.akita-u.ac.jp/public/pu_exhibition.html からご覧いただけます。

国内機関との連携・協力協定

〈大学間協定〉

平成22年5月26日現在

	協定締結日	締結先	協定の形態等	備考
自治体	平成18年 9月25日	秋田県	包括協定	平成20年9月29日 総合地域医療推進学講座 開設のための協定
	平成20年 7月11日	秋田市	//	
	平成20年10月24日	大館市	//	
	平成20年11月 5日	小坂町	//	
	平成20年11月17日	能代市	//	
	平成21年 2月 7日	横手市	//	
	平成21年10月 6日	北秋田市	//	
	平成22年 5月26日	大仙市	//	
大 学	平成10年 3月23日	放送大学	単位互換に関する協定	
	平成14年 5月22日	北東北国立3大学	//	(3大学: 秋田大学、弘前大学、岩手大学)
	平成19年12月25日	群馬大学	グローバルCOEプログラム 「生態調節シグナルの統合的研究」	
	平成20年 7月22日	秋田県立大学	連携協力協定	
	平成21年 3月24日	秋田県立大学、国際教養大学	//	
高等学校	平成20年 3月26日	秋田県立秋田高等学校	授業科目の履修に関する協定	
	平成20年 3月27日	秋田県立秋田北高等学校	//	
	//	秋田県立秋田南高等学校	//	
	//	秋田県立秋田中央高等学校	//	
その他 企業等	平成15年12月24日	秋田県立脳血管研究センター	連携大学院協定	
	平成17年 3月17日	秋田大学生生活協同組合	福利厚生事業に関する協定	
	平成18年 7月19日	秋田銀行	連携協力協定	
	平成18年10月24日	北都銀行	//	
	平成18年12月 6日	商工組合中央金庫秋田支店	産学連携協力推進協定	
	平成19年 3月 6日	中小企業金融公庫秋田支店	//	株式会社日本政策金融公庫から 平成20年10月1日に改称
	平成19年 7月24日	DOWAホールディングス(株)	包括的連携協定	
	平成20年 3月21日	宇宙航空研究開発機構	宇宙教育活動にする協力協定	
	平成20年 9月11日	株式会社わらび座	連携協力協定	

〈部局間協定〉

平成22年5月26日現在

部局名	協定締結日	締結先	協定の形態等
教育文化 学部	平成19年 3月23日	秋田県秋田北高等学校	連携教育協定
	平成20年 7月 3日	八峰町	//
	平成21年 3月26日	秋田県教育委員会	秋田県総合教育センター研修員の授業科目の履修に関する協定
工学資源学 研究科	平成17年12月13日	秋田工業高等専門学校	学部間協定
	平成18年10月 1日	(財)国際資源大高校	//
	平成18年11月21日	秋田県産業技術総合研究センター	//
	平成21年 2月 9日	北海道大学工学部	文部科学省選定「資源開発人材育成プログラム」における 単位互換協定
産学連携 推進機構	平成21年10月13日	大仙市商工会	産学連携協力協定

役員数

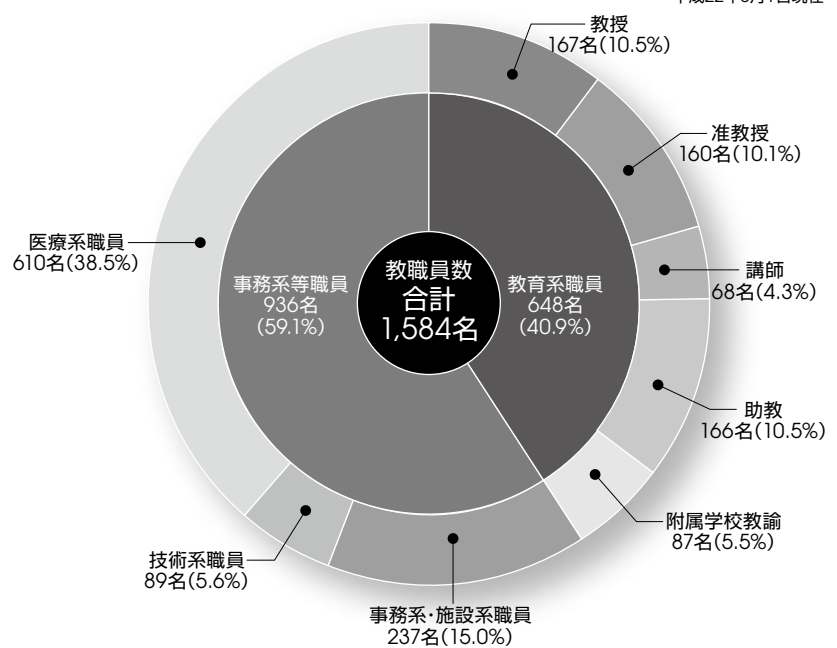
平成22年5月1日現在

区 分	学 長	理 事	監 事	計
学 長	1			1
理 事		5 (1)		5 (1)
監 事			2 (1)	2 (1)
計	1	5 (1)	2 (1)	8 (2)

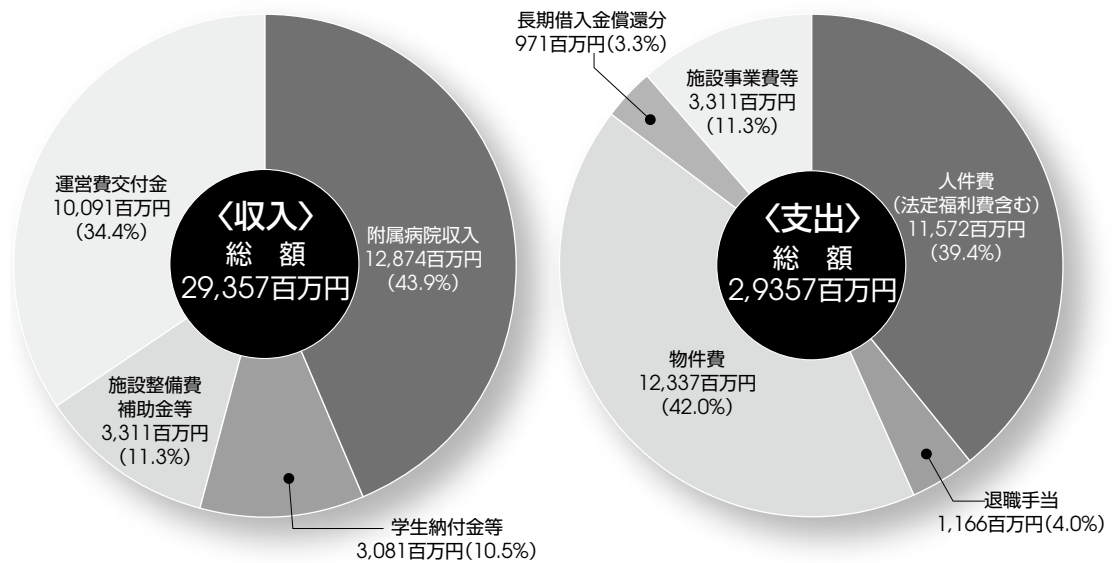
※ () 内の数は非常勤で内数

教職員数

平成22年5月1日現在



平成22年度予算



※金額は平成22年度予算額であり、上記収入および支出には産学連携等研究費および寄附金に係る経費は含まない。

外部資金 受入状況

単位:千円

名 称	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
民間等との共同研究	46	45,700	56	61,810	59	77,934	59	58,659
受託研究	57	170,009	77	245,914	73	276,786	86	312,251
奨学寄附金	781	424,225	810	451,989	830	485,359	794	515,847
寄附講座	—	—	—	—	2	38,300	3	75,800
合 計	884	639,934	943	759,713	964	878,379	942	962,557

※受託研究には治験薬試験・病理組織検査・受託試験を含まない。奨学寄附金には教育研究支援基金を含まない。

平成22年度科学研究費 補助金採択状況

単位:千円 平成22年4月内定時

研究種目	採択件数	交付金額		
		直接経費(研究費)	間接経費	合計
特定領域研究	1	3,100	—	3,100
新学術領域研究(研究課題提案型)	3	18,200	5,460	23,660
若手研究(A)	1	6,200	1,860	8,060
若手研究(B)	53	62,300	18,690	80,990
基盤研究(B)	18	74,000	22,200	96,200
基盤研究(C)	101	110,300	33,090	143,390
挑戦的萌芽研究	4	4,800	—	4,800
奨励研究	10	5,420	—	5,420
合 計	191	284,320	81,300	365,620

土地・建物

平成22年4月1日現在

区 分			建物 延床面積	土 地	
手形地区	本 部		7,889㎡	200,276㎡	
	教育文化学部	学部	21,456㎡		
		附属教育実践研究支援センター			539㎡
	工学資源学部	学部	30,243㎡		
		附属鉱業博物館			3,835㎡
		附属環境資源学研究センター			2,975㎡
	附属図書館		4,129㎡		
	保健管理センター		428㎡		
	産学連携推進機構		1,131㎡		
	総合研究棟		4,266㎡		
	総合情報処理センター		957㎡		
	放射性同位元素センター		338㎡		
	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー		2,878㎡		
	ベンチャーインキュベーションセンター		716㎡		
	学生支援棟		1,102㎡		
	インフォメーションセンター		249㎡		
	大学会館		3,040㎡		
	体育関係施設		3,827㎡		
	課外活動施設		1,395㎡		
	小 計		91,393㎡		
本道地区	医学部		35,513㎡	168,222㎡	
	医学部附属病院		42,718㎡		
	医学部附属病院 第2病棟		14,369㎡		
	附属図書館医学部分館		1,717㎡		
	体育関係施設		1,079㎡		
	バイオサイエンス教育・研究センター		7,359㎡		
	課外活動施設		396㎡		
	看護師宿舎・本道寮(女子)		2,997㎡		
	職員宿舎(糠塚)		5,197㎡		
	小 計		111,345㎡		
	保戸野地区	教育文化学部附属幼稚園			1,212㎡
教育文化学部附属小学校		7,680㎡			
教育文化学部附属中学校		7,562㎡			
教育文化学部附属特別支援学校		3,338㎡			
小 計		19,792㎡			
その他	寄宿舍(手形寮(女子)、西谷地寮、留学生会館、国際交流会館)		8,810㎡	24,816㎡	
	職員宿舎(休下町、城下町、新栄町、金砂町他)		6,324㎡		
	その他		1,701㎡		
	小 計		16,835㎡		
合 計			239,365㎡	462,121㎡	

刊行物一覧

担 当	刊行物等名	発行回数／年	発行時期
評価センター	評価センター年報・研究紀要	1回	3月
企画広報課	秋田大学概要	1回	6月
	秋田大学概要(ダイジェスト版)	1回	6月
	秋田大学広報誌「Aprire(アプリーレ)」	4回	
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	VBL年報	1回	4月
総合情報処理センター	秋田大学総合情報処理センター広報	2回	11月・3月
附属図書館	図書館だより	1回	10月
	秋田大学情報探索ガイドブック	1回	3月
教育推進総合センター	秋田大学教養基礎教育研究年報	1回	3月
	教育推進総合センターフォーラム	2回	10月・2月
社会貢献推進室	キャンパスガイドマップ	1回	
学生支援総合センター	キャンパスライフ	1回	4月
保健管理センター	保健管理概要	1回	12月
入試課	秋田大学入学案内	1回	5月
国際交流センター	秋田大学案内(英語版)	不定期	
	秋田大学概要リーフレット(英語版・中国語版)	不定期	
	留学案内(英語版・中国語版・韓国語版)	1回	7月
	あきた留学生交流	1回	3月
施設企画課	秋田大学環境報告書※HP上で公表	1回	9月
環境安全センター	秋田大学環境安全センター報	1回	4月
教育文化学部	秋田大学教育文化学部案内	1回	4月
	秋田大学教育文化学部案内(英語版)	不定期	
	秋田大学教育文化学部研究紀要 (教育科学、自然科学、人文科学・社会科学)	1回	3月
附属教育実践研究支援センター	教育実践研究紀要	1回	5月
	臨床心理相談研究	1回	3月
医学系研究科・医学部	秋田大学大学院医学系研究科・医学部 医学部附属病院 概要	1回	7月
	秋田大学医学部保健学科案内	1回	6月
	秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要	2回	11月・3月
附属病院	秋大病院ネットワーク	2回	11月・3月
	秋田大学医学部附属病院年報	1回	8月
工学資源学研究科・工学資源学部	工学資源学部・大学院工学資源学研究科概要	1回	6月
	学部案内ERA 「Engineering Resource Science Akita University」	1回	4月
	秋田大学工学資源学部研究報告	1回	10月
	TEXNE(通信教育講座機関誌)	1回	3月
附属鉱業博物館	鉱業博物館	1回	3月

各所在地・連絡先一覧

Address and Telephone Number

〈手形地区〉

名 称	所在地	電話番号
総務課総務担当（総合案内）	〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号	018-889-2207
評価センター	〃	018-889-2938
附属図書館	〃	018-889-2273
保健管理センター	〃	018-889-2286
産学連携推進機構	〃	018-889-2712
総合情報処理センター	〃	018-889-2499
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	〃	018-889-3040
放射性同位元素センター	〃	—
ベンチャーインキュベーションセンター	〃	018-889-3011
国際交流センター	〃	018-889-2856
教育推進総合センター	〃	018-889-3193
教員免許状更新講習推進センター	〃	018-889-3205
社会貢献推進室	〃	018-889-2270
学生支援総合センター	〃	018-889-2265
男女共同参画推進室	〃	018-889-3183
インフォメーションセンター	〃	018-889-2931
教育文化学部 総務担当	〃	018-889-2504
教育文化学部 附属教育実践研究支援センター	〃	018-889-2700
工学資源学部 総務担当	〃	018-889-2305
工学資源学部 附属地域防災力研究センター	〒010-8502 秋田市手形字大沢28番地の2号	—
工学資源学部 附属鉱業博物館	〃	018-889-2461
工学資源学部 附属ものづくり創造工学センター	〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号	018-889-2806
工学資源学部 附属環境資源学研究中心	〃	018-889-2460



手形地区

〈本道地区〉

名 称	所在地	電話番号
医学部（総合案内）	〒010-8543 秋田市本道1丁目1の1	018-833-1166
医学部 附属病院（総合案内）	〃	018-834-1111
バイオサイエンス教育・研究センター 分子医学部門	〃	018-884-6191
バイオサイエンス教育・研究センター 動物実験部門	〃	018-884-6193
バイオサイエンス教育・研究センター 放射性同位元素部門	〃	018-884-6196
環境安全センター	〃	018-884-6192
附属図書館 医学部分館	〃	018-833-6218



本道地区

〈保戸野地区〉

名 称	所在地	電話番号
教育文化学部 附属幼稚園	〒010-0904 秋田市保戸野原の町14番32号	018-862-2343
教育文化学部 附属小学校	〒010-0904 秋田市保戸野原の町13番1号	018-862-2593
教育文化学部 附属中学校	〒010-0904 秋田市保戸野原の町7番75号	018-862-3350
教育文化学部 附属特別支援学校	〃	018-862-8583



保戸野地区

〈その他施設等〉

名 称	所在地	電話番号
西谷地寮(男子)	〒010-0851 秋田市手形西谷地5-1	018-833-2856
手形寮(女子)	〒010-0862 秋田市手形田中5番50号	—
本道寮(女子)	〒010-0825 秋田市柳田字糠塚100-3	—
国際交流会館	〒010-0862 秋田市手形田中5番50号	—
留学生会館	〒010-0041 秋田市広面字高田4番	—
戸賀臨海実習所	〒010-0673 男鹿市戸賀塩浜字平床39の2	0185-37-2024
乳頭ロッジ	〒014-1201 仙北市田沢湖生保内字駒ヶ岳2-228	0187-46-2110
横手分校	〒013-8601 横手市条里1丁目1番64号	0182-38-8304
東京サテライト	〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6 キャンパスイノベーションセンター 604号室	03-5440-9104
放送大学秋田学習センター	〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号	018-831-1997

手形地区施設配置図

Tegata Campus Map



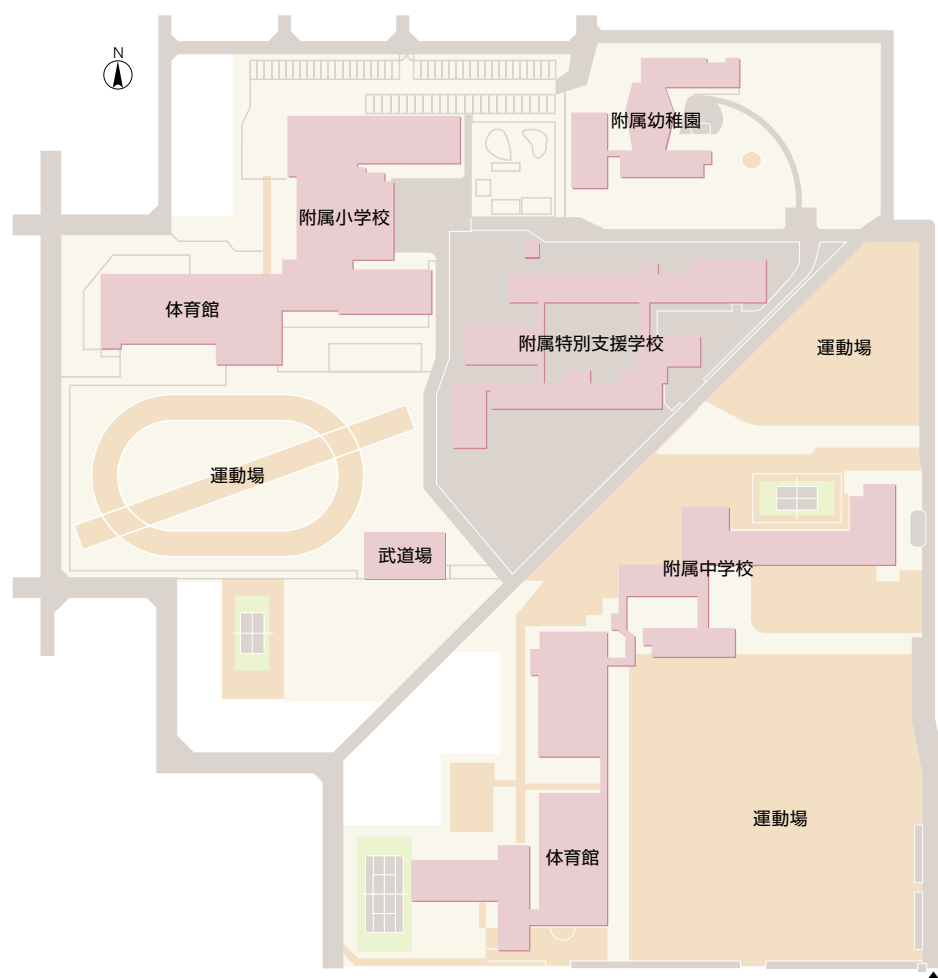
本道地区施設配置図

Hondo Campus Map



保戸野地区施設配置図

Hodono Campus Map



アクセス

Access



＜秋田まで＞

平成22年4月現在

東京から	羽田空港→秋田空港(1時間5分)
	秋田新幹線「こまち」 東京駅→秋田駅(約4時間)
	高速バス「フローラ号」 新宿西口→秋田駅(約8時間30分)
横浜(東京)から	JRバス「ドリーム秋田・横浜号」 横浜駅→東京駅→秋田駅(約9時間40分)
名古屋から	名古屋(小牧)空港→秋田空港(1時間10分)
	中部国際空港→秋田空港(1時間25分)
大阪から	大阪国際(伊丹)空港→秋田空港(1時間25分)
札幌から	新千歳空港→秋田空港(55分)
ソウルから	仁川国際空港→秋田空港(2時間15分)
秋田空港～ 秋田駅間 リムジンバス	秋田空港→秋田駅[西口①番のりば](40分) ※毎日17便運行
	＜高速道路ノンストップ＞
	秋田空港→秋田駅[東口④番のりば](25分) ※毎日3便運行

＜秋田駅から秋田大学まで＞

平成22年4月現在

行き先	バス路線(秋田中央交通)	秋田駅前 バスのりば	下車バス停(所要時間)
手形 地区	手形山經由大学病院線	西口④番	秋田大学前(約10分) 下車→徒歩約1分
	●秋田駅東口より徒歩約15分(約1.3km)		
本道 地区	手形山經由大学病院線	西口④番	大学病院前(約20分) 下車→徒歩約1分
	下北手線	西口⑬番	
	赤沼線		
	太平線		
	松崎団地線		
	駅東線	東口①番	
赤沼線	東口②番		
保戸野 地区	神田旭野線	西口③番	原の町(約10分) 下車→徒歩約3分
	神田土崎線		
	添川線		



学 年 暦

●学年

前 期…… 4月1日～ 9月30日

後 期……10月1日～ 3月31日

●式典(平成22年度)

入学式……4月 6日

卒業式……3月23日

●休業(平成22年度)

夏季休業…… 8月 5日～ 9月30日

冬季休業……12月26日～ 1月 8日

春季休業…… 2月21日～ 3月31日

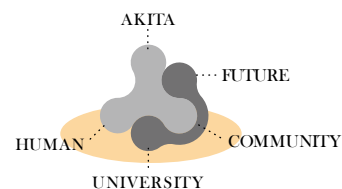
学 章



秋田大学の学章については、昭和24年9月16日に秋田大学開学記念として、懸賞募集の結果、臨時評議会において1等当選となった図案である。

3枚の秋田路の葉に、大学の文字を配したもので、当時の鉱山学部教官中村譲氏の考案による。その後秋田大学のシンボルマークとして使用されてきたが、平成16年4月1日に学章として定められ、同時に校旗の制式も定められた。

ロゴマーク



それぞれの円には、上の5つの意味を込めている。また、オレンジの形の3頂点は秋田大学の3学部の存在を表している。



オレンジの形にはAkitaの“A”を、ブルーの形にはUniversityの“U”のイメージを持たせている。



秋田大学 概要

平成22年度

[編集発行]

秋田大学 企画広報課

秋田市手形学園町1番1号 〒010-8502

TEL018-889-3019 FAX018-889-2219

E-mail kouhou@jimu.akita-u.ac.jp

<http://www.akita-u.ac.jp>